

東京歯科大学同窓会会報 第379号

目 次

グラビア セピア色の写真館

巻 頭 言	1
お知らせ	2～5
会 務	6～13
理事会のうごき	14～16
学 術	17～19
保 険	20
母校だより	21～26
支部のうごき	27～31
ふるさと自慢	32
クラス会だより	33～37
すいどうばし	38
庶務日誌	39
逝去会員	40
へんしゅうこうき	41
平成22年度評議員会・第116回定時総会報告	42～72

(表紙 河原俊朗)

---

# セピア色の写真館 ～思い出の一枚～

自動車部



写真上 これは筆者ではなく、後輩です。  
写真下 トライアル終了後（S60年11月）



作戦会議中 (S60年11月)

## 自動車部

～ 土の上を走るのが  
楽しかったあの頃 ～

呆れるほどに夜行性のクラブであった。

のっけから告解とは情けないが事実だから仕方がない。決して昼間怠けていたわけでもないのだが、夜の方が部活、つまり作業に集中できた。そう、当時の自動車部の活動内容はそのほとんどが車の整備作業であり、そしてそのほとんどが夜間に行われた。

夏場は夜の方が涼しいといった理由もあったが、冬でも夜間作業が常であったし、我々のみならずF1のようなトップカテゴリーのメカニック達ですら深夜の作業が日常である事を思えば、自動車いじりとは元来

そういったものなのかも知れない。

そんな深夜作業で整備した車輛で競技会に出場する。主に参加していたのはダートトライアルと呼ばれる競技で、グラウンド等未舗装の路面上にコースを設定し、一台ずつ走行してタイムを競うというもの。レースと違いコース上でのバトルは無いが、ドライバーの技量（と車の性能）の差がタイムの差としてハッキリ出る。

使用するのは部車と呼ばれるクラブ所有車輛と個人車輛である。部車は、先輩の寄付からなる車か解体屋で手に入れた車であり、そもそも競技での使用に適していない車種であることも少なくない。個人車輛の方も似たり寄ったりで、多少は走り易

いという程度。

少しでも速い車は優先的に下級生に与え、そうでない車は我々上級生が使う。そんな美しい理想を抱きつつも、下級生思いの優しさなど微塵もないダメ主将。場面を問わず、我儘を押し通さなかった事は一度もなかった。そしてそれでも後輩達は慕ってくれていた。……と思う。…  
…思いたい。

後輩諸君ゴメンね。いやホント、今では申し訳なく思っています。

このグラビアページのタイトルは「セピア色の写真館」であるが、記憶の中の風景は今も全く色褪せていない。眩しいほどに鮮烈な輝きを放っている。

(昭和62年卒 鈴木浩之 記)



走行後 (S61年11月)



練習走行後 (S59年10月)

## 「同窓会」・「若い人」・ 「社会性」



専 務  
高 橋 義 一

同窓会改革では若手支援を謳っている。その一つの事業として若手同窓支援セミナーがあり、先日開催された。若い先生が臨床でトラブルにあわないように、そして明日の臨床に役立つよう、医事処理、保険を切り口に

しながらBS製剤や下歯槽神経麻痺について学術的な話をすすめるという新企画で高い評価を得たとのことである。さて、話はもどるが、この研修会を我が支部の若手に紹介しようとした。しかし気がつくや卒後5年、卒後10年の若者は支部にはいなかったのである。今年から始まった本部-支部間の情報ネットで行われたアンケート結果でも、確かに“若い人が少なく、高齢化で活動に苦勞する”という声が多かった。どうも「同窓会」と「若い人」のリンクが薄くなりつつあるのかもしれない。

同窓会改革の一つにシンクタンク機能という新しい項目が加わってきた。シンクタンクというと頭脳集団、同窓会のシンクタンクといえば同窓会の方向性などを考えることになるが、あえてターゲットを新しい歯科医療にむけている。東京歯科大学風、血脇イズムもにじませながらまとめてゆくかもしれない。将来は出来上がった考え方を会員に情報提供したり、外部と意見交換ができたらと期待する。さらにこの機能には、出来上がった新しい考え方を実行できる人材づくりまでも含められればと考える。こうなれば当然、“将来”をベースに「社会」そして「若い人」という言葉が「同窓会」にリンクしてくるのである。

東京歯科大学、そして同窓会の歴史はなんていっても歯科界においてリーダーシップをとり今日の基盤を築いてきたことの自負である。今またその原点をみなおし、しっかりと方向を見定めていく時期であり、そのためには「同窓会」そして「若い人」さらには「社会」への貢献とを意識的にリンクさせることが大切と思う。同窓会の目的である会員相互の親睦並びに福祉そして母校発展への寄与をすすめながら、会則で定める“歯科医学や歯科医業の向上をすすめる”とある「社会性」にも重きをおくもので、換言すれば社会の中でも存在意義が認められる組織へシフトできればと願うところである。

今回の同窓会改革では地域との連携、大学との連携、事業・機構の改革など重要な課題があげられているが、これら比較的内向きの課題と平行して、「同窓会」・「若い人」・「社会性」といった少し外向きの課題も積極的に取り組み、これからの同窓会の役割について考えるようになっていかなければと思う。

まず今は始めることは、「若い人」と「同窓会」とのリンクをしっかりさせることで、本部の改革事業のみならず、支部そして会員一人一人にもご尽力をお願いする次第である。

# お知らせ

## 理事会より

- 11月27日（土）如水会館にて平成22年度評議員会ならびに第116回定時総会が行われました。多くの評議員の先生方による活発な質疑応答により同窓会改革と会員資格に係る会則変更と会員緊急時代診制度が可決承認されました。いよいよ23年度は改革が具体化される年となります。  
会員の皆様よろしくご協力をお願いいたします。
- 同窓会本部の年末年始のお休みは、平成22年12月29日（水）～平成23年1月4日（火）までです。

## 同窓会事業・行事

- 第39回全国ゴルフ大会  
と き 平成23年9月15日(木)予定（詳細未定）
- 平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成23年11月（詳細未定）
- TDC 卒後研修セミナー2011プログラム  
東京歯科大学同窓会フォーラム  
『国民に最良の歯科医療を提供するために』  
～日本人の健康観と日本型歯科医療制度を探る～ 2月20日(日)

### 卒研セミナー

- |   |  |
|---|--|
| No.1 イブニングセミナー『iPadを使った患者さんとのコミュニケーション』<br>～臨床記録の保存と活用～<br>3月24日(木) | No.4 イブニングセミナー『スタンダードブリーチング』<br>～感染に対する正しい知識～<br>9月8日(木) |
| No.2 実習セミナー『攻めのTBIとフッ化物の応用』<br>～治療を目的とした、知って得するテクニック～<br>4月24日(日)   | No.5 実習セミナー『床型装置と咬合育成』<br>～介入時期と介入方略～ 11月27日(日)          |
| No.3 ディスカッションセミナー『義歯の設計を考える』<br>～診るポイントとは～ 6月26日(日)                 | TDC インプラントセミナー・マスターコース<br>(全10回) 開催日 5月～10月              |

## 母校関係行事・案内

### 平成23年度 東京歯科大学 入学試験情報

入学種別	募集人員	出願期間(必着)	試験日	合格発表日	会場
一般入試Ⅰ期	約50名	12月16日(木)	2月2日(水)	2月5日(土)	東京会場 (東京歯科大学水道橋校舎) 大阪会場 (天満研修センター) 福岡会場 (TKP天神シティセンター)
センターⅠ期	13名	～1月27日(木)			
一般入試Ⅱ期	約15名	2月22日(火)	3月12日(土)	3月15日(火)	東京歯科大学水道橋校舎
センターⅡ期	5名	～3月8日(火)			
編入学	若干名				

## 会務アラカルト

### 同窓会改革が平成23年からスタートします

同窓会改革は事業改革と機構改革からなりますが、事業改革については平成23年度から始まることになりました。11月27日（土）に行われた評議員会において事業改革を盛り込んだ事業計画が承認され、平成21年春から検討してきた同窓会改革が来年1月から本格的にスタートすることになりました。

事業改革は、

- (1)支部・地域支部連合会との関係強化
- (2)母校との連携強化
- (3)シンクタンク機能の推進
- (4)若手育成・支援のための卒後研修事業の見直し

などから構成されており、ここでは主な新しい事業を紹介しましょう。

### 主な新しい事業

#### 同窓会長賞など在校生への活動支援

学生時代から同窓の先輩の存在、同窓会の存在を知らせてゆきます。内容や基準作りはこれからですが、秀でた人には同窓会長賞をと考えています。そしていろいろな学生の活動にも支援してゆく予定です。

#### 学年代表者会の開催

同窓は支部を通した縦のつながりとクラス会を通した横のつながりでしっかりと結ばれています。しかし本部はクラス代表、すなわち学年代表とは密なつながりはありませんでした。クラス会とのつながりを作り、情報のネットワークを作ったり、いろいろな意見などいただいたり、クラス会の応援などが出来るようにしたいと思います。期待に膨らみますが、まずは関係作りからと考えています。

#### 情報ネットワーク

今年からテスト的にスタートして現在109支部中83支部が参加しております。本部からの情報を送っております。会員の先生方の声も頂きたいと思います。情報ネットワークは支部間にある情報量の地域格差を解消し、みなさんとの距離を近づけることができます。さらに支部の中でもネットワークをもっていれば、いろいろな情報や資料を、本部から瞬時に先生方に送ることも不可能ではありません。

#### 若手支援の研修会

どこまでが若手かという難しい質問がでてきますが、若い先生が経験不足から臨床で困ったことに遭わないように、しかも聴いていて自然と身につくレベルアップを果たせる贅沢な内容を考えています。先日医事処理・保険・学術混合型の新しい形の若手研修会がありました。好評で、受けたほとんどの人が、今回は同級生や知人に知らせるとアンケートにこたえていました。また今後の研修会についての質問では医院経営についてなど医療管理を希望する声が多かったようです。

#### シンクタンク機能

将来の歯科医療や卒後研修のあり方などいろいろな問題を考えてゆきます。そこでまとまった情報はできるだけ会員の先生方にとどくようにと考えています。来年の2月20日（日）に東京歯科大学同窓会フォーラムが開催します。これはシンクタンク機能の第一弾であり、テーマは「国民に最良の歯科医療を提供するために」～日本人の健康観と日本型歯科医療制度を探る～です。奮ってご参加ください。

#### 会則も変わります

改革を行っていくにあたって必要な会則の変更や、会務運営上変える必要のある会則の変更案も評議員会に議題として上程され可決されました。どのように変わったか、主なものを紹介しましょう。

#### 臨床研修医会員

臨床研修医の期間中は臨床研修医会員になります。本部の方で、臨床研修医会員としてしっかり存在を認識し応援してゆきたいと思います。

#### 高齢会員

同じ卒業学年で一緒に高齢会員になれるように変わりました。今までは75歳から高齢会員でしたが、これからは卒業学年単位で一緒に高齢会員になります。23年1月から施行ですが、会則の切り替え時期の関係から実際には来年は今までどおりで、平成24年から変わってきます。

#### 会務処理機構

いままで8部でしたが5部に削減されます。総務部、会計部、渉外部、学術部、広報部、厚生部、保険部、情報部でしたが、今回の改正で総務・厚生部、会計部、渉外部、そして広報と情報が一緒になり広報部、学術と保険と新たな改革関連事業をうけもつパートを含んだ事業推進部になります。削減で事業縮小というのではなく、一緒になることにより今までの縦割り部分によるマイナスが解消されより会員各位にはサービスが向上すると考えています。

#### 機構改革の行方

評議員会では機構改革として(1)執行部役員について、(2)評議員会のあり方について、(3)地域支部連合会の役割について協議題として議論され

ました。執行部のスリム化は勿論のこと、評議員会のスリム化は以前より言われてきたことで、実際にどのようにスリム化するかの方法論が焦点になってきています。今回の提案は、いままで支部単位に選出されている評議員を、地域支部連合会単位に会員数割で選出する方式で、それによれば評議員数がほぼ半分に削減することができるとしています。しかしながら削減によって会員数の少ない支部などは評議員を出せないケースもおこり、この問題への対応が今回の協議題での議論の中心となりました。

協議題での提案では、評議員会では時間の制約もあり、地域の声を携

えて出席されている評議員の先生からゆっくりとお話を伺うことは出来ませんので、むしろ地域支部連合会で開催されている総会や支部長会に本部から役員が積極的に赴き、意見交換することで問題を解消したいとしています。さらに、地域支部連合会の会長が本部の役員に入り直接理事会で発言されることによって地域の意見がより強く反映されるのではとの提案をしております。勿論、情報ネットワークをつかって本部と支部との双方向の意見交換も重要になります。最近では近隣歯科大学が増え、各地域の同窓が少なくなって会員の高齢化と少ない若手同窓の現状から支部の活動力が下がりつつある

とされています。支部に強い光を再びともすには、支部から近い位置にある地域支部連合会の存在が大切になります。今回の機構改革提案は評議員会のスリム化だけではなく、それによって生じる問題と地域支部連合会による地域の活性化の課題とを織り交ぜて考えられています。

今回の評議員会では、各地域での評議員選出の難しさ、そして評議員会に出席できない支部の存在により生じる大きな懸念などが指摘されました。本部としましては、各所でいただく貴重なご意見をもとに、この大きな難題に取り組むこととなります。

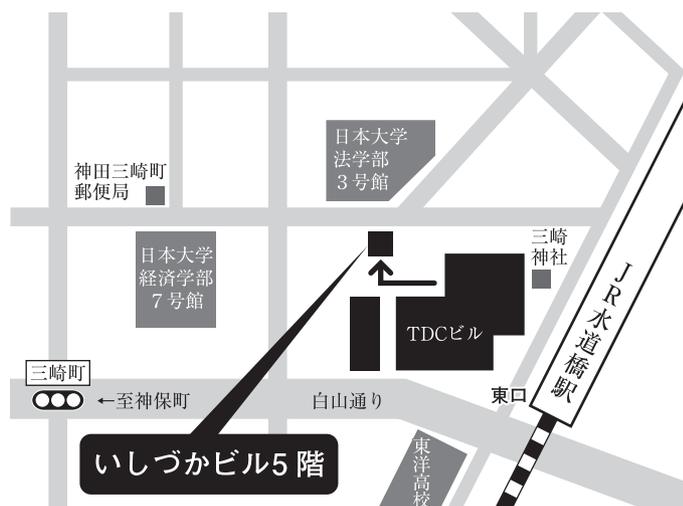
## 同窓会事務所移転のお知らせ

同窓会事務所が TDC ビル裏手の「いしづかビル5階」に移転しました。

いしづかビル（東京歯科大学所有）は三崎神社の並びにあります。

「いしづかビル」には TDC ビル内の駐車場に入る道路に沿って入り、TDC ビル敷地内から「いしづかビル」の中に入ることができます。

なお事務所は移転いたしましたが、郵送の際の住所、電話番号は今まで通りにご連絡お願いいたします。



## 水道橋移転事業の寄付に対する寄付金控除について

平成22年11月27日に開催された平成22年度評議委員会にて寄付金控除について質問がありました。より多くの方にご寄付の協力をして頂くために、個人の方からの寄付金については寄付金控除の適用が受けられるという資料が法人事務局経理課より理事会にて配布されましたので掲載いたします。尚法人としてのご寄付については取り扱いが異なるためあらためてお知らせをいたします。

法人事務局 経理課

## 所得税法上の寄付金控除について

東京歯科大学への寄付金は文部科学大臣から特定公益増進法人であることの証明を受けており、個人の方からの寄付金については、所得税の寄付金控除の適用を受けることができます。

### ①寄付金控除額の計算方法

〈寄付金控除額〉＝寄付金額（総所得金額等の40%が限度）－2千円

### ②寄付金控除により還付される金額の計算方法

〈還付金額〉＝寄付金控除額×税率（下表参照）

#### ・税率表

課税所得金額	税率
195万円以下	5%
195万円を超え 330万円以下	10%
330万円を超え 695万円以下	20%
695万円を超え 900万円以下	23%
900万円を超え 1,800万円以下	33%
1,800万円超	40%

（平成22年4月1日現在の法令による）

（例）課税所得金額が800万円の方が、20万円の寄付をされた場合

（200,000円－2,000円）×23%＝45,540円（還付金額）

・上記計算方法で算出した寄付金控除により還付される税金の目安

（還付金は目安ですのご参考としてお取扱いください）

課税所得金額（万円）	600	700	800	900	1,000	1,500	2,000
寄付金額（万円）	還付金額（円）						
20	39,600	45,540	45,540	45,540	65,340	65,340	79,200
40	79,600	91,540	91,540	91,540	131,340	131,340	159,200
60	119,600	137,540	137,540	137,540	197,340	197,340	239,200
80	159,600	183,540	183,540	183,540	263,340	263,340	319,200
100	199,600	229,540	229,540	229,540	329,340	329,340	399,200

※課税所得金額とは、給与等の収入金額から給与所得控除、各種保険料等の控除、扶養控除、配偶者控除等の合計額を差し引いた金額をいいます。

また、上記表中の課税所得金額は寄付金控除前の金額としております。

## 平成22年度評議員会 第116回定時総会報告 —同窓会改革のための予算および会則変更議案通過する—

平成22年度評議員会は、平成22年11月27日(土)午前10時から、一ツ橋にある如水会館において開催された。高橋義一専務理事の司会のもと、片倉恵男副会長の開会の辞で評議員会は始まった。点呼は受付の署名簿をもって替え、評議員総数155名中、出席120名(10時現在)で会議は成立した。

大山萬夫会長の挨拶は、別掲の通りである。次に高橋専務理事より来賓の紹介があり、来賓を代表して熱田俊之助理事長、金子 譲学長よりご挨拶をいただいた。その要旨は別記の通りである。

### 議長・副議長の選出

司会者の一任となり、議長に墨田支部、小貫 克評議員、副議長に千葉県支部、財部正治評議員が選出された。議事録署名人には杉並支部、中川杉生評議員、千葉県支部、鳩貝尚志評議員が議長より指名された。

### 報 告

報告に先立ち、代理出席者の承認が諮られ承認された。次いで147名の物故会員に対して全員黙祷を捧げた。平成22年度会務全般の報告が高橋専務理事よりあった。次いで寺田仁志会計担当常任理事から平成22年度会計現況報告がなされ審議の結果承認された。

### (東京歯科大学の現況報告)

金子学長と井出吉信副学長から大学の現況報告が行われた。

### 金子学長報告

大学の現況と歯科大学環境を巡る諸問題について説明された。

### 井出副学長報告

水道橋移転と学生教育の現状について説明があった。

### 寄付のお願い

関副会長より同窓会の中に募金担当を設け大学からは柳澤副学長に参加していただいている。募金額として現在200名で6,000万円では目標額までには程遠い額である。大学からの「ご寄付のお願い」ならびに同窓会から「東京歯科大学創立120周年記念事業への協力についてのごお願い」を配布し、支部長、評議員の方にご寄付のお願いと地元へ帰り会員の方への説明をお願いする報告があった。

### (事前質問について)

各評議員には評議員会資料と伴に議事進行を円滑に行うため前回同様事前質問用紙が同封された。その結果、3つの事前質問をいただいた。議長より事前質問はそれぞれ関連するところで質問を受けることを



提案承認される。会長挨拶から報告事項までの質問を受け十分な審議のち可決承認された。

### 議 事

第1号から第5号議案までの平成21年度決算関係の議案が一括上程され、原 武仁常任監事から監査報告後、質疑となり、第1号より第5号までの議案が原案通り可決承認された。第6号議案可決承認後、第7号議案では、表彰について、学年代表者会の設置について、会務処理機構についての会則一部変更について高橋専務理事より説明があり、事前質問を受けた。

1) 広島県支部の上田喜清評議員に



より中間答申書では六部となっているが会則では「次の五部を置き」となっているどちらが正しいのか質問があり、高橋専務より五部が正しく、その理由として、作業部会での事業の流れから保険部と学術部と統合した方が事業を行いやすいと理事会で判断したと説明があった。

2) 町田支部の赤田留吉評議員より理事者の数について質問があり、23年度は理事者の数の変更はないと回答があった。

3) 千葉県支部の鳩貝尚志評議員より学年代表者の内容について質問および年1回の開催の要望を受けた。

高橋専務理事より、各クラス会組織の確認、情報ネットワークに参加や協力関係など確認するとの回答があった。審議の結果採決され原案通り可決承認された。続いて第8号議案について、臨床研修医会員、高齢会員などについての会則一部変更などの質疑応答がされた。

千葉県支部の高原正明評議員より、臨床研修医会員について研修期間の違いに対しどう扱うのか、東京歯科大学で研修する他校の研修医はどのようにするのかなど、また高齢者会員について様々な会員の状況を支部で把握するのは困難であり執行部の考えについて質問があった。

その他石川県支部の加藤成俊評議員から高齢会員の負担金について、浅草支部の蛭谷剛文評議員から臨床研修医の入会金についてなどの質問があり審議の後可決承認された。

木俣 茂常任理事より第9号議案「緊急時歯科医師委嘱制度」の説明と、「会員緊急時代診制度」への名称変更の提案があり質疑応答後、訂正を加え、採決に移り可決承認された。

第10号から第13号議案まで一括上程され、高橋専務理事、寺田理事より議案の説明があり、各号に質問

を受け逐次採決が行われ第10号より第13号議案まで原案通り可決承認された。引き続き行われた第14号から第17号議案が一括上程された。質疑の後第14号から第17号議案は可決承認された。名誉会員推薦について第18号議案で審議され、東京歯科大学名誉教授薬師寺 仁先生(小児歯科学講座)、同じく東京歯科大学名誉教授柿澤 卓先生(口腔健康臨床科学講座)、同じく東京歯科大学名誉教授安達 康先生(口腔健康臨床科学講座)の3名の方を名誉会員に推薦、可決承認された。

#### 協 議

高橋専務理事より協議事項についての説明がなされた。機構改革について執行部のスリム化、評議員会のスリム化、地域支部連合会の役割について説明され、足腰の強い同窓会組織を目指し以下が提案された。

##### 1) 執行部役員について

理事者数を30名以内から28名以内とする。副会長を5名から5名以内とする。地域支部連合会長が地域支部選出理事になる。

##### 2) 評議員会のあり方について

地域支部連合単位で評議員を選出(各地域支部連合会から最低1名、100人を超えるごとに1名を追加)

する。日本歯科医師会役員、日本歯科医師会代議員、都道府県歯科医師会会長は参与として評議員とはしない。学年代表は、学年代表者会とおし関係構築をし、評議員会での役割を再検討する。地域支部連合会長が原則地域選出理事になる。なおこの場合評議員を兼ねないものとする。

##### 3) 地域支部連合会の役割について

(1)地域支部連合会における支部長会の開催。支部長会を地域支部連合会単位で開催、本部から役員等が参加し意見や要望を本部に反映させるようにする。

(2)地域支部連合会会長の任期を本部役員任期とあわせ原則地域選出理事として執行部に参加する。

(3)各地域との情報交換をもとに継続的に検討と見直しを行い、各地域に応じ納得できる地域支部連合会の役割を目指すものとする。

#### 質問として

予算削減のため、評議員の数を削減したい趣旨は解るが改正案では評議員無しの支部が生ずるのでは、また、地域支部連合会から情報提供はあるが評議員会の議決に加われない。それをふまえ支部会員数2桁の支部には評議員を与えて欲しいとあり、高橋専務理事より、地域支部連



合会総会や支部長会に出向いて意見を吸い上げたり、情報ネットを活用して地域の意見を反映したい。提案については今後執行部で考えるとの回答があった。その他、各地域支部連合会での評議員の決め方について、北海道や東京以外の複数県の地域支部連合に関連して、県支部単位のところから1人は出したらなどの意見や参与についての質問があった。この協議題の意見については今後の検討に役立たせたいとの回答があった。

その他協議事項として、同窓会報の表紙について、そして寄付金の金額についても質問された。

同級生である千葉県支部の鳩貝評議員より、そして茨城県支部山口忠夫評議員から川口 浩議員の件で同窓会への感謝の意が伝えられ、同窓会からの支援のお願いがあった。

#### 名誉会員の表彰

先ほど推薦された3名の先生の表



彰が行われた。

#### 平成22年度叙勲・褒章受章者の顕彰式ならびに同窓会会長賞表彰式

佐々木理事より平成22年度に叙勲・褒章を受章した13名の紹介があり、大山会長より顕彰状と記念品が伝授された。代表して高橋一祐名誉教授より謝辞が述べられた。



次に今年で5回目の同窓会会長賞表彰式に移り、同窓会会長賞最優秀賞に寺川由比君、優秀賞に大金 覚君、中村安孝君の3名にそれぞれ大山会長より表彰状と金一封が伝授された。矢崎秀昭副会長の閉会の辞で本年度の評議員会は終了した。



#### 第116回同窓会定時総会

第116回定時総会は高橋専務理事司会のもと関 泰忠副会長の開会の辞で始まり、会長挨拶の後、議長に財部正治会員、副議長に小貫 克会員を選出、また議事録署名人に玉井達人会員、石原 忍会員が指名され総会が進められた。まず高橋専務理事より平成22年度会務報告、小貫克評議員会議長より評議員会報告、寺田常任理事より平成22年度予算関係の報告があり承認された。議事に入り、平成21年度決算関係並びに財産目録の5議案提案の後、柳澤孝彰監事の監査報告がありそれぞれ審議され承認可決した。



片倉恵男副会長の閉会の辞で総会は終了した。

総会終了後、多くの会員が懇親会に出席し和やかな雰囲気の中に終了した。

## 評議員会挨拶

### 大山会長 挨拶要旨



大学の移転問題、募金問題について地域支部連合会、支部総会に出席させていただき説明を続けてきた結

果、ある程度のご理解をしていただけだと思っている。

さらに評議員の先生方を通して、各地区の先生方への説明をお願いしたいと考えている。

昨年の評議員会の協議を踏まえ、今執行部は少子化に向かって同窓会員の減少に対し効率のよい、足腰の強い同窓会を目指すため改革検討特別委員会を立ち上げ、コンパクトで

機能的な組織づくりのため協議をしていただいた。また改革に伴い会則の変更が必要なため会則検討特別委員会を立ち上げた。改革案は今日の協議題として提出しているので協議していただき来年度には決議したいと考えている。

東京歯科大学創立120周年記念事業の大学移転に関しては順調に進んでいると聞いている。

これに対しての情報を会員にできるだけ知らせてもらえるように大学側をお願いしている。

また大学としても、こういう非常に厳しい経済状況で新たな事業、移転という大きなプロジェクトを大変慎重に進めていると聞いている。

銀行のOBの方に室長をお願いして内部監査室を設け、皆さま方に明快なご回答ができるように監査をしているので私たちとしても磐石の信頼を置いてよいと考えている。

また、私立大学そのものが都心回帰というものを非常に大きな問題としている。明治大学の納屋学長のご講演ではかつては受験者が早稲田、慶応になかなか追いつかなかった。

受験生の目を集中させるため大改造をして、タワーをつくり若い受験生の魅力ある大学にしたところ慶応、早稲田を抜いてトップの受験生を得た。

受験生が減るということはこれから少子化に向かう今、歯科の場合も大きな問題である。経済雑誌でも、「学歴と人生の損得」、「各業種のいい大学」とか、いろいろなタイトルで国家試験のランクというのを発表している。歯科において国家試験に強い大学が29校全部書いてあり第3位に東京歯科大学が入っている。受験生に対しての雑誌(記事)でも業種に対して強い大学というのは、東京大学、慶応大学、早稲田大学、東

京歯科大学、全国で4番目になっている。「資格取得に対して有利である」といわれている。

東京歯科は同業大学で注目の的で120周年の伝統というものが大変大きな陰の力になっている。

移転しても、他の大学は目標にしているわけで今までの実力ある教授陣であれば現在のポストは維持できるものと考え。今日ある我々は母校のおかげであり、このような時代だから募金ができないということではなく、このような時代だからこそ何とかしようじゃないかというような気概をもって募金に協力をしたい。

よろしく願いいたします。

## 熱田理事長 挨拶要旨



大学の水道橋移転事業については、平成20年3月の法人理事会において承認、決定後、金子学長を始め、先生方の努力により順調に経過をしている。

本年12月の下旬には、私と金子学長、建設担当常務理事の井出副学長で施工候補業者からの見積書提出を受け、審査の後、その結果をもって法人理事会に上程し、業者の選定を行うこととなる。

水道橋移転施設整備のご寄付については、金子学長、大山同窓会長を通じ、同窓会会員の皆さま方にご協力、ご支援をお願いしているところではありますが、応募件数は現在のところ順調に進んでおり、3ヵ月を経て、およそ200名超の方々から6,000万円を超えるご寄付の申込をいただ

いている。今後も引き続き、ご支援の程をお願いしたい。

大学の現況は、歯科大学・歯学部のだ定員削減問題に関し、文部科学省のヒアリングを受けてきたところであるが、本学は入学試験の受験者数、国家試験の結果等々を鑑み、喫緊の対応は、心配ないという認識である。

創立以来120年の歴史において国政に参画した先生は、昨年の衆議院議員総選挙で当選された川口先生で10名になる。

一番最初に衆議院に参画したのは、血脇守之助先生の信頼が非常に厚く、野口英世先生と席を並べ勉強したという石塚三郎先生であり、退任されてからは、野口英世記念会の結成に生涯をかけ、その結果が野口英世記念館となっている。今の館長は高添一郎先生である。

その次は、杉山元治郎先生で東歯の同窓ではないが我が校と関係が深く、戦中・戦後を通じて歯科界のために非常に尽くしたというふう聞いている。次に静岡市出身の山田

順策先生、戦後、昭和14年卒函館出身の田中 元先生である。田中先生は卒業後、興亜院の技師となり終戦を迎え昭和24年、函館から立候補し当選している。2回目は惜敗したが3回目には、トップ当選した。田中先生は事ある度に恩師である奥村学長の意見を伺い、自らの道を決めていた。

その後、浅井 亨先生、鹿島俊雄先生、私の同期の浅井美幸先生、井上 裕先生、関口恵造先生ということで、全部東京歯科医学専門学校の先生である。

昭和28年に大学の1期生が卒業しているが、初めて、大学の卒業生として川口先生が当選した。過日、文部科学委員会で歯科医療に関する非常に詳細な質問をされ、まさに我々の代表に相応しい人才であると敬服をしている。

同窓の方々から後援をしたい、というご希望が有ると聞いている。後援の仕方は様々であるが、その方法を十分研究されて応援をお願いする。

## 金子学長 挨拶要旨

### 大学の現状報告



各地区において、移転に関しご理解をいただいていることを感謝している。

同窓会改革案の中でクラス会の立場をきちっと決めようとしていることは、同窓の皆さまに情報を伝達するための一つのルートとして大学にとって大変喜ばしいことだというふうに認識している。

6月に私立歯科大学協会に文科省より一律10%の定員削減の強い要望があったが結果的にはまともらなかった。

7月は移転建設改修の実施設計に着手をした。

8月大学移転の寄付のお願いをさせて頂いた。

9月文科省の競争的プログラム(研究)が採択された。

10月文科省から定員削減に向けて歯学部教育実態調査があり指導要綱ヒアリングを受け最終的には削減必要な大学は公表する。

11月推薦入試があり昨年より受験者数が増加した。

歯学部の状況は悪化しており第一

は志願者離れであり定員割れ大学が昨年より今年は増加をした。一方文科省は質の保証を強く要求しなおかつ定員の削減をドッキングさせている。また厚労省も質の担保として国家試験の重要性を強くしている。

私立歯科大学協会17校は第一に歯科という内容および歯学部での勉強はどういうことをするのか積極的に国民に広報活動をすることを決定した。

現状認識は大学の存亡をかけた危機的な状況にあると認識している。学生の歯学部離れは回復困難であり、歯科診療所の収入の低減、医療費の抑制、日本経済の低迷、医学部定員の増加は3年間で1,300名の増加で歯学部で10校ぐらいに値する。また根源的なものは人口構造で少子高齢化である。

従って簡単な回復は難しいと判断している。現状はまだ入り口の段階で二極化しておりそれに対応するには質を担保することと財務であると考ええる。

私立歯科大学協会の調査により歯科医師という仕事に対するイメージを1,000名から回答を得た。その結果高収入、エリートであるは2割で、尊敬されるは1割であった。

しかし仕事は楽ではないという認識であった。子供になってもらいたい4%, 自分になってみたい3%で従ってこの状況では受験生は集ま

りにくいと考える。

21年度の決算ですが収入が年間240億の予算であり学生の納付金が2割弱で医療収入が7割でありきちんとした収支がないと大学全体の安定は得られない。

支出は227億で人件費が5割に達している。教育研究費が2割弱で医療経費が2割強である。

過去5年間の平均収支差額は8億で約総収入の3%となり利益率は非常に悪いと考える。

競争的資金の獲得は歯学部だけが競争相手でなくすべての大学が対象で450校から650件の応募がありその15%程度しか採択されない。その中で東京歯科大学は3つを採択されかなり努力をしている。

現時点では募集定員の充足率、国試の合格率、歯学体、偏差値、留年者数、入学試験の競争倍率からみると圧倒的に東京歯科は優位である。

ただ今後もこれを維持するためには、まず受験志願者の増加を図ることが必須でこのためには指定校を増やし、広報活動においては歯科の魅力、歯科医療の重要性(口腔と全身との関係、口腔科学は生命科学の一分野)を伝え、それに見合った収益性をも追求することが必要である。

最後に寄付のお願いで血協ホール建設と一般市民の皆さんに我が校の歴史を見て頂く、ミュージアム設置に支援をお願いしたい。



## 第5回東京歯科大学同窓会会長賞について

東京歯科大学同窓会が創立110周年を記念して母校の人材育成に寄与することを目的として平成17年に創設したものである。本賞は、本学大学院歯学研究科において、優秀な成績で課程を終了したのに対して授与するものであり副賞として金一封が贈られる。

今回の受賞者は大学より推薦を受けた方が理事会にて承認され下記の3名に決定された。

評議員会(平成22年11月27日開催)において表彰され壇上にて研究内容について簡単な説明をされた。



### 第5回東京歯科大学同窓会会長賞

#### ○最優秀賞(1名)

歯科麻酔学講座 寺川 由比(平成22年3月修了)

#### ○優秀賞(2名)

口腔外科学講座 大金 覚(平成20年3月修了)

法歯学講座 中村 安孝(平成21年3月修了)

### 歯科麻酔学講座 寺川 由比(平成22年3月修了)

論文名：Redistribution of tissue blood flow after stellate ganglion block in the rabbit.

ウサギにおける星状神経節ブロック(SGB)後の組織血流の再分布

雑誌名：Regional Anesthesia and Pain Medicine 34：553～556, 2009.



星状神経節ブロック(SGB)では、交感神経遮断により同側頭頸部と上肢の血流量が増加する。従来の報告では、施行側の血流量増加は反対側からの血流の再分布によるといわれているが、その他の部位については明らかにされていない。そこで本研究では家兎を用いて、SGB後の血流の再分布について検討した。

日本白色種系雄性家兎(n=16)をイソフルラン麻酔下に気管切開・カテーテル留置し、酸素とセボフルランで維持した。SGBは左側頸椎椎体と左側総頸動脈との間に針を刺入し、左側頸椎横突起に針先が当たったことを確認して1%リドカイン塩酸塩0.2ml(Lidocaine group, n=8)または、生理食塩水0.2ml(Saline group, n=8)を注入した。Lidocaine groupではSGB直前(Pre)と左側総頸動脈血流量(CCBF)の最大変化時(Post)を、Saline groupではSGB直前(Pre)とSGB施行後3分(Post)を観察時期とした。観察項目は心拍数、収縮期圧、拡張期圧、平均動脈圧、CCBF、左側(L)と右側(R)の下顎骨骨髄血流量(BBF)、咬筋血流量

(MBF)、舌粘膜血流量(TMBF)、肝右葉血流量(LBF)、左側腎皮質血流量(RBF)、左側大腿四頭筋血流量(QBF)とした。CCBFは超音波血流計、TMBFはレーザードップラー血流計、MBF、LBF、RBF、QBFは水素クリアランス式組織血流計で測定した。

Lidocaine groupではSGBの最大作用発現時間は2.6±0.2minであった。Lidocaine groupとSaline groupにおいて、それぞれのPreのデータに有意差は認められなかった。Saline groupではPreとPostのすべてのデータに有意差は認められなかった。一方、Lidocaine groupでは、SGB後、CCBF、L-BBF、L-MBF、L-TMBFはそれぞれ138%、75%、60%、40%有意に増加し、R-BBF、R-MBF、LBF、RBF、QBFはそれぞれ40%、38%、9%、13%、34%有意に減少した。

以上のことから、SGB施行後には反対側だけでなく下肢や内臓からも血流が再分布することが示された。SGB後の血流の再分布には内臓よりも末梢組織の影響が大きいと考えられた。

口腔外科学講座 大金 寛(平成20年3月修了)

論文名：Spleen tyrosine kinase as a novel candidate tumor suppressor gene for human oral squamous cell carcinoma

口腔癌における新規候補癌抑制遺伝子としての Spleen tyrosine kinase

雑誌名：International Journal of Cancer(124(11)：2009, 2651～7)



癌転移の有無は、臨床上癌患者の予後に直結する因子の一つである。口腔癌における所属リンパ節への転移患者の多くは、手術により審美的、機能的な顎の欠損や軟組織の大きな欠損を伴う。癌転移メカニズムの分子生物学的解析は、新規予後の判定方法の確立、新規治療法選択基準の設定、新規転移抑制剤の開発等、臨床上非常に有用である。

本論文では、乳癌において高頻度な発現低下が報告され、腫瘍の浸潤・転移への関与が示唆されている癌抑制遺伝子である Spleen tyrosine kinase(Syk)に着目し、口腔扁平上皮癌における Syk 遺伝子発現状況を解析し、さらに遺伝子導入法を用いて Syk 遺伝子の機能解析を行い口腔扁平上皮癌における Syk 遺伝子との関係の解明を試みたものである。

その結果、mRNA、蛋白質レベルにおいて Syk の発

現低下が認められ、また DNA レベルにおいてメチル化解析の結果から、口腔扁平上皮癌における Syk の発現低下が、メチル化などのエピジェネティックな制御による可能性が示唆された。また遺伝子導入法を用いた機能解析の結果から Syk は、口腔扁平上皮癌において細胞の運動性、増殖性に対し抑制的に働きかけることが示唆された。

また臨床検体を用いた免疫組織化学染色法の結果、口腔扁平上皮癌において、高頻度に Syk の発現低下が認められ、臨床指標との比較ではリンパ節転移の有無において統計学的に有意な差が認められた。この結果は、Syk が転移能にも関係している可能性が示唆された。さらなる解析が必要ではあるが、Syk の発現状況は、口腔癌において転移診断法・転移予測診断法等の開発へ貢献できる可能性が示唆された。

法歯学講座 中村 安孝(平成21年3月修了)

論文名：Sixteen X-chromosomal STRs in two octaplex PCRs in Japanese population and development of 15-locus multiplex PCR system

2つの8座位一括PCR検査法による16X-STR座位の日本人における出現頻度調査と、15座位一括PCR検査法への発展。

雑誌名：International Journal of Legal Medicine(124(5)：2010, 405～414)



現在の個人識別は常染色体検査キットを主に用い、それらを補う形でY染色体、ミトコンドリアDNAが使用されているが、複雑な鑑定ケースにおいてはそれのみで解決できない場合も多く、新たなツールとしてX染色体が注目され、法医学上の個人識別において重要度を増してきている。本研究では、X染色体上にあるSTR多型を用い、X染色体多型の個人識別における有用性の検証、日本人における出現頻度情報の取得、複数座位を一度に検査可能な Multiplex PCR system の作成を目的とした。

日本人512人(男性339人および女性173人)を対象とし、16のX-STR座位(DXS7424, GATA172D05, HPRTB, DXS8377, GATA31E08, DXS9895, DXS7423, DXS981, DXS6803, DXS6789, DXS6800, DXS6803, DXS7133, DXS7132, DXS101, DXS6807)を調査可能とする2つの8座位 Multiplex PCR system を作成してこれらの多型情報を求めた。また、

鑑定の現場において再取得の不可能な微量資料を考慮し、少量の資料から可能な限り多くの情報を得る必要性を考え、2つの8座位検査法を改良し、15座位一括のPCR増幅法へと発展させた。この検査はDNA1ngから増幅可能であり、状態の悪い遺体の歯牙より抽出したDNAでも結果を得る事ができた。得られた日本人多型出現頻度より、15plex PCR SystemのTotal Power of discriminationは0.9999999965と高く、十分な個人識別能力がある事が証明された。

X染色体多型は常染色体多型と同様に多型性が高く、同一染色体上の複数座位を検査可能な事からhaplotypeとして比較が可能であるとも考えられ、多型頻度データベースを作成し、家系資料を数世代遡っての鑑定を可能にする応用法の確立を見れば、歯牙よりDNAを抽出するしか手段のない古い資料を扱うケースの多い法歯学分野のDNA鑑定には必須の手段となると考えている。

## 東京歯科大学同窓会 若年同窓支援セミナー

「よく解る・保険診療録の書き方と患者さん対応のポイント」  
～正しい記録でトラブルを防ごう～

2010年11月7日に、若年同窓支援セミナーが約60名の参加を得て開催されました。

最初に大山萬夫同窓会長のご挨拶があり、「若い同窓を積極的に支援する事業の一環として、今回初めて若年同窓支援セミナーを企画し、日常臨床で遭遇する困難にどう対処したらよいかを学んでいただく機会となることを意図しています。今後も、年1～2回開催していきたい」と述べられました。

まず、山口和彦先生が「診療録に必要なことは？」と題して診療録(カルテ)の保存期間、記載内容について解説されました。特にS (subjective), O (objective), A (assessment), P (plan), T (treatment), E (effect) に基づいた記載が必要であり初診時には問診票を重視し、単に書き写すだけでなくコミュニケーションツールとして利用し、患者の信頼を獲得することを目指そうと話されました。

次に稲葉孝夫先生が「医療事故例から学ぶ」として、都歯の医事処理の現状を説明しました。医事処理件数は増加の一途をたどっており、医事紛争を起こさないためには患者とのインフォームドコンセントを、いかに確立させるかが大切になります。歯科医師責任賠償保険に加入していることは絶対に必要なことですが、安易に「保険がありますから大丈夫」とは言わないことが肝心です。医事紛争が起きた場合、個人で対応することは時間的にも精神的にも大きな負担となるので、必ず都歯の医事処理のシステムを活用してほ



しいと述べられました。

片倉 朗先生は「BS 製剤服用患者の歯科処置について」とのテーマで学術的な立場から解説されました。BS 製剤は破骨細胞を抑制し骨代謝を阻害する作用を持っており、多くの適応症があって、広く患者に投与されています。詳しい作用機序は不明ですが、長期投与により骨硬化を起こしている顎骨に対し抜歯等による侵襲や細菌感染が加わると、顎骨壊死を引き起こします。特に注射用製剤投与患者は、原則として外科処置を行わないよう話されました。

下歯槽神経麻痺について、まず稲葉先生から最近の医事紛争事例に対して解説がなされ、片倉先生からは智歯難抜歯手術では0.4～0.6%に麻痺が出現するが、一過性の症例が大部分であり6ヵ月後には0.05%に減少。この場合は神経切断の可能性が高く、治癒が望めなくなる。パントモ写真で下歯槽神経損傷の可能性が疑われる場合は、できるだけCT



検査を実施すべきとのことです。さらに抜歯による舌神経麻痺の事例が増加しており注意が必要。神経麻痺が出現した場合は、36時間以内に投薬等の治療を開始しないと予後が不良となるとのこと。

抗血栓薬服用患者の外科処置についてはPT-INR 値が3.0未満であることを確認し、休薬はせず十分な止血処置を考慮する、とのことでした。

ディスクッションに移り、抜歯時等の同意書は、インフォームドコンセントの確認に役立つがそれでも過失責任を逃れることはできません。初診から信頼関係をしっかり構築することが最も大切です、とのコメントが得られました。

今講演では、東京歯科大学同窓の強力なネットワークが感じられました。若年同窓の先生が困難に直面した時には、ぜひ地域の同窓の先輩に相談されることをお勧めします。必ずや強力なバックアップを得ることができるでしょう。

(取材・広報部 小池 修)



# 理事会のうごき

## 第4回理事会

平成22年9月11日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 33名

議長 大山会長

### 会長挨拶

同窓会会則変更の問題のほかに母校創立120周年記念事業の水道橋移転にともなう募金の問題が出てきている。各地域の関心度が高くまたそれぞれの地区により受け取り方が異なるように感じている。理事者のご協力のもと各支部の会員までご理解をいただきながらご協力ご支持を得たい。

### 黙 禱

平成22年7月13日から本日までに逝去連絡があった25名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告および承認

- 1) 平成22年7月14日から12月20日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務部：①同窓会事務局が移転したことを報告。  
②母校創立120周年記念事業協力について現況を報告。  
③支部長必携について資料に基づき報告。  
④同窓会事務局の現状を報告。
  - (2) 会計部：①事務室移転経費について報告。  
②平成22年度5月末経常部予算執行調べについて報告。
  - (3) 渉外部：①渉外部委員会報告。  
②東海地域支部連合会総会開催時にブロック別の委員会開催を予定している旨報告。
  - (4) 学術部：①学術部委員会報告。  
②第26回全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会について報告。  
③TDC 卒後研修セミナー2010について報告。
  - (5) 広報部：①広報部委員会報告。
  - (6) 厚生部：①厚生部委員会報告。  
②厚生部委員会ゴルフ大会委員会報告。  
③罹災会員2名について報告。
  - (7) 保険部：①保険部委員会報告。  
②東京歯科大学同窓会全国社会保険指導者懇談会懇親会について報告。
  - (8) 情報部：①情報部委員会報告。

- (9) 作業部会：①管理系ワーキンググループ報告。  
②事業系ワーキンググループ報告。  
③情報ネット推進ワーキンググループ報告。
- (10) 同窓会改革検討特別委員会報告。
- (11) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会報告。

### 各地域選出理事報告

- 1) 戸田理事（北海道）
  - ①北海道地域支部連合会総会が開催され、71名の出席があったことを報告。
  - ②北海道地域支部連合会役員会・支部長会を開催し、意見交換をしたい旨報告。
- 2) 高橋理事（東北）
  - ①東北地域支部連合会総会が恒例の年1回の親睦の会として開催されたことを報告。
  - ②同窓会改革、大学の寄付金について各支部長へ連絡したが、今のところ大きな動きは無い等、現状報告。
- 3) 長久保理事（関東）
  - ①関東地域支部連合会総会が開催され、議題中特に寄付について活発な討議があったことを報告。
- 4) 早速理事（東京）
  - ①学術・保険・厚生・総会と事業をひかえていることを報告。
  - ②東京地域支部連合会は特に血協記念ホール使用の恩恵にあずかっているため寄付に対して積極的に取り組まなければならないと思っている。
- 5) 飯島理事（信越）
  - ①新潟県支部担当で信越地域支部連合会総会が開催されたことを報告。
  - ②長野県合同支部総会が開催され寄付について協議したことを報告。
- 6) 宮田理事（東海）
  - ①東海地域支部連合会総会の前に第1回渉外ブロック委員会開催を予定していることを報告。
- 7) 宮本理事（北陸）
  - ①北陸地域支部連合会総会は隔年で開催のため今年の開催は無いことを報告。
  - ②寄付については具体的にはまだ出ていないことを報告。

## 8) 井口理事 (近畿)

- ①近畿地域支部連合会支部長会開催を報告。
- ②近畿地域支部連合会総会が開催されることを報告。
- ③連合会主催ゴルフ大会に対する支援を依頼。

## 9) 山根理事 (中国)

- ①地域選出理事報告となっているが、報告だけでは一定の書面を出せば済むことであり、違うかたちにするのが良いのではないかと提案。

## 10) 久保田理事 (四国)

- ①寄付については暗澹たる気持ちになるような会員からの意見も上がってきている。反対ではなく、出来ない、という歯科界の側面を現しているのではないかと思うが、マイナス要素に惑わされないで幅広く考えて行なわなければと報告。

## 11) 濱田理事 (九州)

- ①九州地域支部連合会総会は理事会と重なっている。
- ②100キロ圏内であっても必ず一泊するので検討を要望。

## 協議事項

- 1) 推薦会員退会願いについて1件承認。
- 2) 同窓会改革について協議の結果、各地域の事情も勘案した上少しずつでも確実に前進させる方向で、出来ることから本年度の評議員会に協議題又議案として上程、その提案内容については会長一任として承認。
- 3) 会則検討特別委員会の諮問内容について協議の結果、会則検討特別委員会での審議内容を逐次各理事に連絡しながらすすめていくことで承認された。
- 4) 厚生部「緊急時歯科医師委嘱制度」について本年度の評議員会に議案として上程することへの提案がなされ協議の結果、承認。
- 5) 平成23年度事業計画(案)および予算(案)について資料に基づき説明、協議の結果会長一任として承認。
- 6) TDC 卒後研修セミナー2011について、資料に基づき説明、協議の結果承認。
- 7) 平成22年度評議員会日程および当日運営について説明、協議の結果会長一任として承認。
- 8) 母校創立120周年記念事業協力実務委員会について協議の結果、承認。
- 9) 全歯懇の作業部会について提案あり、承認。
- 10) 罹災共済金の支出2件承認。
- 11) 同窓会報への広告依頼1件承認。
- 12) 第42回東歯祭への祝金について例年通り25万円支出することを承認。

## 第5回理事会

平成22年10月16日(土)午後2時30分

於 特別会議室

出席 30名

議長 大山会長

## 会長挨拶

評議員会に関する協議事項が多数あり、充分協議いただきたい。

母校創立120周年記念事業募金のお願いが大学より出された後の各地の状況が伝わってきている。厳しい世の中で会員の募金申し込み状況は芳しくないようなので、我々が積極的に協力して成功にもっていかねばならないと考えている。今後、支部と緊密な連絡をとりながら進めていきたい。

## 黙 祷

平成22年9月15日から本日までに逝去連絡があった10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

## 会務報告および承認

- 1) 平成22年9月11日から12月22日までの日程の報告がされ、承認。
- 2) 各部報告がされ、承認。
  - (1) 総務部：①支部長交代について1件報告。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について1件報告。③支部学術講演会講師派遣交通費の支出について9件報告。④会員数調べについて報告。⑤母校創立120周年記念事業協力について現況を報告。
  - (2) 会計部：①平成22年度7月末経常部予算執行調べについて報告。
  - (3) 渉外部：①渉外部委員会について報告。②トライアルとして開催された第1回ブロック別委員会について報告。
  - (4) 学術部：①学術部委員会について報告。②TDC 卒後研修セミナー2010について報告。
  - (5) 広報部：①広報部委員会報告。
  - (6) 厚生部：協議事項で一括報告することを説明。
  - (7) 保険部：①保険部委員会報告。②東歯系全国社会保険指導者懇談会懇親会について報告。
  - (8) 情報部：①情報部委員会報告。
  - (9) 作業部会：①管理系ワーキンググループ報告。②事業系ワーキンググループ報告。③情報ネット推進ワーキンググループ報告。

- (10) 同窓会改革検討特別委員会報告。
- (11) 第57回全国歯科大学同窓・校友会懇話会および第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会について一括報告。
- (12) その他：①大学の報告。②日本歯科医師会報告。③日本歯科医師連盟報告。

#### 各地域選出理事報告

- 1) 戸田理事（北海道）
  - ①10月2日連合会支部長会を開催し同窓会の改革，大学に対する寄付などについて協議したことについて報告。
- 2) 高橋理事（東北）
  - ①各支部長に意見をうかがったことについて報告。
- 3) 長久保理事（関東）
  - 特になし
- 4) 早速理事（東京）
  - ①連合会理事会で同窓会改革案について協議したことについて報告。
- 5) 飯島理事（信越）
  - ①各支部長からの意見を報告。
- 6) 宮田理事（東海）
  - ①渉外部地域ブロック委員会が東海地域ではじめて行なわれたことについて報告。
  - ②連合会総会は来年三重県担当で開催，平成23年9月7日に支部長会開催予定であることを報告。
- 7) 宮本理事（北陸）
  - ①来年度の連合会総会の準備を始めている中で大学への寄付の件，評議員数削減等について意見が出たことを報告。
- 8) 井口理事（近畿）
  - ①11月23日開催の連合会総会で執行部の考えを説明依頼。
- 9) 山根理事（中国）
  - ①12月4日島根県支部総会開催で中国地域全ての支部総会は終了。本部役員出張がない支部からは総会報告を提出してもらおうと本部と支部との連携を深めることができると提案。
- 10) 久保田理事（四国）
  - ①12月4日愛媛県支部総会が開催。四国では愛媛県以外は総会という形で開催されていないので今後そのようにもっていきたい。
  - ②各支部より同窓改革および寄付に関する意見を聞き報告。

#### 協議事項

- 1) 同窓会改革検討特別委員会の答申書および会則検討特別委員会の中間答申書を踏まえた上での「同窓会改革に向けての提案」について，本年度評議員会の具体的な議案，協議題及び会則変更案を説明，協議の結果承認。
- 2) 「同窓会改革に向けての提案」に伴う具体的な会則変更内容について提案，協議の結果承認。
- 3) 評議員会に上程を予定する緊急時歯科医師委嘱制度を緊急時代診制度に名称変更したい旨説明，承認。
- 4) TDC 卒後研修セミナー2011について日程を含め提案，協議の結果承認。
- 5) 平成23年度入会金，会費，共済負担金について現行どおりとしたい旨提案，協議の結果承認。
- 6) 平成23年度理事会・常任理事会開催日数について提案，協議の結果承認。
- 7) 「同窓会改革に向けての提案」を踏まえ平成23年度東京歯科大学同窓会事業計画案を説明・提案，協議の結果承認。
- 8) 「同窓会改革に向けての提案」を踏まえ平成23年度東京歯科大学同窓会事業予算案について説明・提案，協議の結果承認。
- 9) 本年度の評議員会に上程される備品廃棄処分品について説明・提案，協議の結果承認。
- 10) 本年度の評議員会の予定・進行について説明・提案，協議の結果承認。
- 11) 第5回東京歯科大学同窓会会長賞について，大学から候補者の推薦が遅れている事を説明，受賞者の最終決定は会長一任としたい旨の提案，協議の結果承認。
- 12) 同窓会として2台分の大学駐車場を確保したい旨の提案がなされ，協議の結果承認。
- 13) 平成8年に制定された現在の東京歯科大学同窓会職員就業規程・給与規程について，現在の労働基準法に準じるように改め平成23年1月1日施行したい旨提案，協議の結果承認。
- 14) 事務局職員の採用について，派遣業者を介して事務局職員を確保したい旨提案，協議の結果承認。
- 15) 今後，メーリングリストによる持ち回り会議を開催したい旨提案，協議の結果承認。
- 16) 今秋予定されている，諸会合のお祝い金に関して会長一任としたい旨の提案，協議の結果承認。

## 卒研レポート2010

### 卒後研修セミナー 咬合育成の基礎と臨床 ～床矯正装置入門～

最近では、混合歯列期の小児患者に対して、床矯正装置により治療を行う例が多く見られるようになったが、その適応については、十分な知識に基づいた治療計画、治療目標が必要であるの言うまでもない。

10月17日に行なわれたセミナーでは、小児の咬合育成に必要な基礎知識と装置について解説があり、実際に装置を使って調節の仕方を実習した。

矯正治療に際しては、何よりも診断が重要であり、口腔内を診るより前に、顔貌を診る事が大切とのことであった。特有の顔貌をしている上顎前突、反対咬合は、骨格に問題があることが多いため、今回のような床装置では改善が不可能であること、また、口腔内の診査では、移動するためのスペースの有無、上下歯列の前後、左右（側方）、上下的な関係、そして機能的な問題の把握が重要であり、床装置による治療には限界があり、骨格系に問題のない症例に限られることを強調された。また、子供の場合には、症例の把握が

不十分なまま間違った治療をすると、どんどんと悪い方向にいったまうので、症例を客観的評価し、難易度も判定する必要がある。そのためには、頭部X線規格写真が有用であるが、設備がない場合には、他院に撮影を依頼するにも一法であろう。

実習では、まず、模型上に設計線を記入し、ワイヤー・ベンディングを行なった。受講者は、慣れない作業のためか、プライヤーを持つ手がぎこちなく、なかなか思うように屈曲できないようであった。

昼食後は、床装置の調整法の説明の後、大白歯を遠心へ移動するためのスプリングを組み込んだシャームプレート、側切歯を唇側に移動するためのスプリングと口蓋正中部にスクリューを組み込んだエキスパンションプレートの2つのタイプの床装置を使ってタイポドント実習を行い、歯の動きを体験した。スプリング、あるいは維持のためのクラスプも、調節の仕方によっては、床装置自体が浮き上がって不安定になり、効率的な歯の移動が難しくなることも実感した。ワックス上とはいえ、スプリングの調節により、歯が動くのを実感できるのは、受講者にとっては非常に分かりやすいようであ

った。

最後のまとめとして、末石研二教授から、「咬合育成を行なう際の留意点」の解説があり、歯の萌出時期を理解し、後継歯、隣在歯の動きにも注意ということと、とかく前方の歯に注意が行きがちであるが、第二大臼歯の萌出管理が大切である、とのお話であった。第二大臼歯が咬合へ参加する永久歯列の完成までは責任を持つべきであり、それが困難な場合は、途中で専門医にゆだねるべきである、と結ばれた。

2008年に開催した成人に対するM.T.M基礎コースでは、M.T.Mを補綴処置などと組み合わせる事により、より高い治療効果を上げる事が出来る、という趣旨であった。今回は、小児に対する咬合の育成のための一法としての床矯正装置についての講習であった。

どちらも明確な目標を設定しての治療であり、症例に対する見極めは大切で、無理であれば、矯正歯科専門医に依頼することも必要である、ということであった。

今回のコースも、予定人数を超えて56名が受講し、国立大学も含め、他大学卒業生も多かった。また、母校歯科矯正学教室の協力のもと、写真と図を多用した分かりやすいシラバスを使用し、実習においては、7名前後に分けられた各テーブルには2名以上のインストラクターが配置され、末石教授自らが、各テーブルを回られ、プライヤーの持ち方からワイヤーベンディングの指導をするという、非常にきめこまやかな指導であったと思われる。

(取材・広報部 東郷幹夫)



## TDC 卒後研修セミナー2011のご案内

### TDC 卒後研修セミナー2011

#### 『歯科臨床の向上を目指して』 ～生涯研修と医療の質～

今年も、TDC 卒後研修セミナー2011プログラム内容が決まりましたので、ご案内いたします。

2011年の卒後研修セミナーの特色は、これまで学術部単独で企画開催して参りました卒後研修セミナーを、同窓会事業の新しい展開である事業系ワーキンググループ (W.G.) と合同でセミナーを組み上げている点です。

セミナー形式でみますと、従来から実施しております実習セミナーとディスカッションセミナー、新たに企画されたイブニングセミナーは学術部委員会で開催いたします。

今回はこれらに加えて、事業系 W.G.の企画としまして、同窓会フォーラムと TDC インプラントセミナー・マスターコースを開催することとなりました。

これは、同窓会現執行部の活動方針である、同窓への支援事業推進、シンクタンク機能の充実、大学との連携強化という方向性と関連した内容となっています。

まず、来年のテーマと企画要旨からご説明します。

ご存知のように、経団連ホールで第1回の TDC 卒後研修セミナーが開催されてから、今年で35年が経過しました。当時と比べますと、歯科医療を取り巻く環境は大きく変化し、良質の医療を行うためには極めて厳しい社会情勢となっていると感じられます。

しかし、私達歯科医療従事者は国民に最良の歯科医療を提供する責務が有り、そのための自己研鑽は生涯

を通じて続けるべきものと考えております。

医療の質を担保するためには、基盤となる歯科診療技術のさらなるスキルアップ、診断力の向上、診療のヒントや必要な知識に興味を持ち、目を向けることが大切です。

そこで、TDC 卒後研修セミナー2011では、「歯科医療の質の担保」「生涯研修」をキーワードに、『歯科臨床の向上を目指して』をメインテーマとしてセミナーを企画いたしました。

セミナーは例年開催しております実習付きセミナーとして、「攻めの TBI とフッ化物の応用」、「床型装置と咬合育成」の2つから、スタッフも含めた臨床における診療技術のスキルアップを図ります。

ディスカッションセミナーでは「義歯の設計を考える」の内容で診断力と診療の基本を学んでいただきます。

そして、新しく企画されたイブニングセミナーの「iPad を使った患者さんとのコミュニケーション」、「スタンダードプリコーション」は、平日の夕方開催という形式で、日々の臨床にすぐに役立つ情報を提供したいと思います。お気軽に聴講されては如何でしょうか。

次に、事業系 W.G.の企画いたします同窓会フォーラム「国民に最良の歯科医療を提供するために」は、同窓会シンクタンク機能の目的として、医療制度の問題を調査研究して参りました。その成果と、以前開催しました卒研フォーラムの、「歯科

医療の将来に向けて ～国民歯科医療の充実とは～」において話し合われた内容を発展させ、「国民に最良の歯科医療を提供するために ～日本人の健康観と日本型歯科医療制度を探る～」という切り口で、歯科医療制度を考えてみたいと思います。波平恵美子 お茶の水女子大名誉教授 (文化人類学) に特別講演をいただいた後、大久保満男先生、中川勝洋先生、石井拓男先生からのご講演を加えてディスカッションする予定です。果たして、日本型医療制度という考え方が必要なのか探ってみてみたいと思います。

最後に、初の年間型実習付きセミナーとなります「TDC インプラントセミナー・マスターコース」をご紹介します。

これまで TDC 卒後研修セミナーでは、インプラント治療を臨床導入前と導入間もない先生方を対象とした2日間コースのインプラントセミナーを開催し、インプラント治療を行う上で最低限必要な理論と技術のボトムアップを意図したセミナーを開催して参りました。

しかし、2日間という時間では研修項目に限りがあり、インプラント治療を実践するには不十分な項目が生じて参りました。また、治療法の普及とともにインプラント治療関係の医療事故が、マスコミを賑わすことも多くなりつつあります。

そこで、患者さんに信頼の歯科医療を提供するため、本当に必要な知識と技術の習得を目的として、インプラントセミナー・マスターコース

を企画いたしました。事業系 W.G. の活動である「同窓への支援事業推進」「大学との連携強化」を図る目的も考え企画されております。

講師には、本学の誇る口腔インプラントのエキスパートと、これに関連する専門家としてご活躍の、東京歯科大学教授、准教授で構成して

ります。

是非とも、本物の口腔インプラント学を本コースで理解習得され、インプラント治療を通して患者さんと長くつきあい、信頼される医療を提供していただければと思います。

以上、TDC 卒後研修セミナー 2011 をご紹介しました。

是非とも同封のプログラムをご覧になりご検討の上、同窓の皆様が参加されますことを、委員一同お待ちしております。

(TDC 卒後研修セミナー2011

プログラム委員長 小林慶太)

## 文献紹介

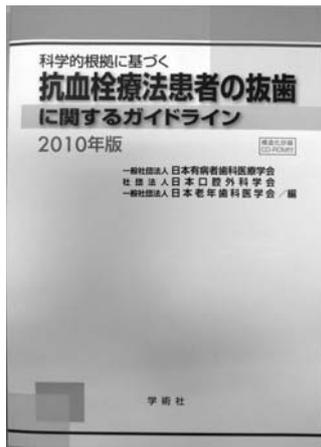
口腔健康臨床科学講座 口腔外科学分野 (水道橋病院 口腔外科)

准教授 片倉 朗

日常の歯科診療に全身的に何らかの配慮を必要とする基礎疾患を有した患者が増加し、私達はそれに的確な対応しなければならない責務を負います。いずれも「現時点で“あるべき医療水準”」を提供する本ですので一読をお勧めします。

### 「科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン 2010版」

日本有病者歯科医療学会・日本口腔外科学会・日本老年歯科医学会／編  
¥2,800 (学術社)

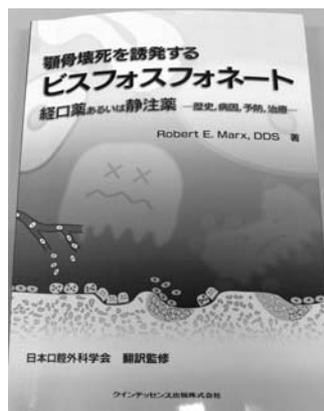


安全な歯科医療を提供するために、抗血栓療法患者に対しての観血的処置についてその対応の整備が急がれていました。近年では抗血栓薬を中止せず抜歯を行うことの有益性が知られてきたものの、医科・歯科ともに十分なコンセンサスが得られていないのが現状でした。今回、日本有病者歯科医療学会、日本口腔外科学会、日本老年歯科医学会の3学会が合同で作業を重ね十分なコンセンサスを得て「科学的根拠に基づく抗血栓療法患者の抜歯に関するガイド

ライン」が刊行されました。本書の刊行には歯科口腔外科領域で活躍する多くの本学同窓が力を注いでいます。本書はワルファリンや抗血小板薬を服用している患者の抜歯に携わる歯科医師および医師を対象に抜歯時の血栓・塞栓症や出血性合併症の発生を回避し、安全、安心な医療を患者に提供することを目的としています。日常臨床でよく生じる疑問点や実際の対応が、1ページごとに科学的根拠を提示しながら具体的にまとめられ解説されています。

### 「顎骨壊死を誘発するビスフォスフォネート 経口薬あるいは静注薬 —歴史、病因、予防、治療—」

Robert E. Marx, DDS／著 日本口腔外科学会／翻訳監修  
¥6,000 (クインテッセンス出版)



ビスフォスフォネート (BP) を使用している患者は抜歯やインプラントなどを契機に顎骨壊死 (BRONJ) を発症することがあるのは広く知られるようになりました。「顎骨壊死を誘発するビスフォスフォネート 経口薬あるいは静注薬 —歴史、病因、予防、治療—」は本疾患の診断・治療・予防に関わる歯科医師、処方医をはじめとするすべての医療関係者が、疾患に対する認識と

理解を共有して BRONJ の発症を回避すること目的に日本口腔外科学会が翻訳監修して刊行されました。本書はガイドラインとなる本ではありませんが BRONJ の議論の原点となっている本であり、BP の作用機序・薬物動態から BP 誘発顎骨壊死のリスク・予防・管理に至るまで豊富な図と写真で文献を引用しながら明快に説明されています。

# 保 険

## 東京歯科大学同窓会主催 全国社会保険指導者懇談会

平成22年10月5日、厚生労働省と日本歯科医師会共催で全国都道府県歯科医師会の社会保険指導者が参集し、日本教育会館において、『平成22年度社会保険指導者研修会』が開催されました。

社会保険指導者研修会終了後、全国から集まった東京歯科大学同窓の指導者により、『東京歯科大学同窓会主催全国社会保険指導者懇談会』が、如水会館において開催されました。

東京歯科大学同窓会保険担当理事、中西国人先生の司会進行で、金子 讓学長、同窓会長大山萬夫先生、日本歯科医師会江里口 彰先生、千葉病院院長高野伸夫先生、日本歯科医師会監事、矢崎秀昭先生が、来賓として出席され、ご挨拶を頂いた後に、講演会に入りました。

講演会は保険部委員会委員長、



蛭谷剛文先生を座長とし、日本歯科医師会保険担当理事、森岡俊介先生が講師を務め、『22年改定について』の講演が行なわれました。

森岡先生は、今回の改定にあたり保険担当理事として、直接、厚生労働省との折衝を担当した一人であり、最前線で現場にいた当事者だからこその話で、迫力のある内容でありました。

22年改定で2.09%の上昇であっ

たが、日本歯科医師会の平成22年9月の『歯科保険医療費動向調査』において、前年同月比での各都道府県の状況は、2.09%に達していない地区が多く、平均すると1.8%程度であること。また、西が高く、東が低い傾向があることだそうです。

また、平成24年は医療保険と介護保険の同時改定が行なわれる意味のある年であること。

改定にあたり、医療費における、国の財源はどうなっているのか、改定率に関しては医科歯科の格差は埋まるのか、歯科医師会の今後の展望に沿うことなのか等の諸問題があり、これらの条件を踏まえ、交渉していかなければならない等の、内容の濃い講演でありました。

講演会后、各都道府県の請求実績や審査について、社保支払基金、国保連合会への対応等の情報の交換が行われた。

また、全国的な東京歯科大学同窓の保険関係の情報交換が有機的に行えるようなネットワークの構築、情報の集約について協議され、懇談会が閉会となりました。

懇談会終了後に、懇親会が、盛大に行われ、全国からの参加者により親睦が深められた。

(保険部委員 加藤興一)



# 母校だより

## 母校の今



### 『唇顎口蓋裂外来』

東京歯科大学口腔外科学講座  
教授 内山 健志

口唇裂・口蓋裂は約500人に一人の割合で生じる先天疾患で、外表奇形の中では最も頻度が高いとされています。その障害は手術による継発症を含めて美的障害、哺乳障害、食物摂取障害、言語障害、歯列不正、上顎骨劣成長、重度う蝕、呼吸器疾患、耳疾患、精神心理学的障害などきわめて多岐にわたります。なかでも出生直後に直面する口唇の異常による哺乳障害と目立ちやすい顔面の審美障害が将来にまで続くことへの恐れによる精神的打撃は、家族とくに母親にとっては計り知れないものがあります。したがってハンディキャップがなく社会生活を送るためには専門の臨床各科によるチーム医療が必要となります。本学千葉病院においては口腔外科（言語聴覚士を含む）、歯科麻酔科、矯正歯科、小児歯科、補綴科で治療を担当しており、症例に応じて市川総合病院の小児科、耳鼻咽喉科、臨床遺伝医とも連携をとり治療に当たっております。このようなチーム医療を1960年の水道橋病院時代から2009年9月までの48年間に行い、患者数は2402人に上ります。

今後さらなる治療の効率化と患者さんの利益のために、唇顎口蓋裂外来が東京歯科大学千葉病院に平成16年、専門外来として承認・設立され

ました。当院で行っている口唇裂・口蓋裂の一貫治療の一つに、チューリッヒシステムがあります。これはスイスのチューリッヒ大学で実施しているシステムで、Hotz(ホッツ)レジン床により母親への心理サポートを行う術前治療と完全口蓋裂に対する顎発育を考慮した二段階口蓋形成術からなっております。

唇顎口蓋裂児の初診患者を例にとり、治療の流れを説明します(図1)。初診時には、唇顎口蓋裂という疾患に関しての概要を説明します。(この時点では両親の精神的ショックが大きく疾患に対する受容ができていないこともあるために大まかな説明に留めておきます。)その上で顎発育誘導、哺乳障害の改善



図1 治療の流れ



写真1 親同士の交流

のために印象採得を行い Hotz 床を装着します。必要に応じて退院前の産婦人科に往診を行い、疾患の説明、口腔内の印象採得を行うこともあります。他の施設では生後すぐから経鼻経管栄養を行っている施設もありますが、当院においては Hotz 床の使用によりほとんどの患児が経口摂取が可能となっております。また、初診時から市川総合病院の小児科を紹介し受診してもらっています。これは口唇裂・口蓋裂児は先天性心疾患を代表とする先天異常の合併の比率が健常児と比べて高いことから他の疾患の一次スクリーニングを兼ねてのことです。

哺乳が良好で成長発達に問題がなければ生後3～4ヶ月で口唇裂一次手術（口唇形成術）を行います（図2）。この手術は最初の手術であるために両親の不安は計り知れないものがあります。そこで手術説明の際に入院中の患者さんがいる場合は保護者の了解を得て患者さんを紹介し、病室見学と“先輩”としての体験談を話してもらいます。同じ疾患を持つ子の親同士なので拒否されることはまず無く、皆さん大変いい雰囲気交流されています（写真1）。

口蓋裂一次手術（口蓋形成術）は術後瘢痕による上顎骨の劣成長を回避する目的で二段階口蓋形成術を施行します。まず、1歳6ヶ月時に軟口蓋の閉鎖を行います。その後は4歳6ヶ月で硬口蓋の閉鎖を行います。この間は口蓋閉鎖床を用いることもありますが、ほとんどの患児はそのままでも日常生活に大きな支障は生じません。しかも軟口蓋を閉鎖してあるために硬口蓋の裂隙は狭小化していきますので、二段階目に行く硬口蓋の形成が容易になります。硬口蓋形成術が終了してから、言語聴覚士の管理の下に言語訓練を行います。就学までに正しい発音を習得します。その後、第1大臼歯の萌出を待ち歯科矯正治療を開始します。そして7～9歳ごろ（犬歯萌出前）に腸骨移植による顎裂部骨移植術を行い、その後本格的な矯正治療を行っ

て一連の治療は完了します。このようなチューリッヒシステムによる一貫治療を行った患児においては言語も咬合も良好で顎矯正手術を行う頻度は著しく低いものです。

また必要に応じて他院からの二次症例の修正手術も施行しております。

この唇顎口蓋裂外来は口腔外科、矯正歯科、小児歯科の医員からなるメンバーで診療にあたっております。患者さんをご紹介いただける際は口腔外科外来（043-270-3901）までご連絡いただくと幸いです。初回治療患者だけでなく他院で治療が行われた二次症例でもまったく構いません。専門外来スタッフが直ちに対応いたします。なお専門外来のホームページは千葉病院では最初に立ち上げました。御覧下さいませよう宜しくお願いします。



片側完全口唇裂の症例です。



二次手術を全く施行していない術後4年の状態を示します。Cupid's bow がきれいに形成されています。



同、術後4年の状態です。外鼻の形態も良好です。

図2 口唇形成術施行患児の術前と術後4年経過時

## 第42回全日本歯科学学生総合体育大会の結果

第42回歯学体大会は「徳島大学歯学部」の事務主管により、冬期3部門が平成21年12月25日(金)から平成22年3月21日(日)[ラグビー・フットボール部門21年12月25～30日, アメリカンフットボール部門22年3月14～17日, スキー部門22年3月17～21日]に、夏期16部門が平成22年7月31日(土)～8月9日(月)の日程(開会式は22年8月1日, 閉会式は22年8月11日)で実施された。

本学は冬・夏併せて19部門, 延べ

387名の学生が参戦し, 各部門競技の頂点を目指して熱い戦いを繰り広げた。

部門成績は2年連続優勝のバドミントン部を筆頭に, 陸上競技部, 軟式庭球部が優勝, 水泳部が準優勝, 剣道部, スキー部が3位のほか下表のとおり部門順位でポイントを獲得した。その結果, 今年の総合「準優勝」には及ばなかったものの, 「第3位」の成績を取めた。

### 団体部門入賞成績

部門名	順位
軟式庭球部門女子団体	優勝
硬式庭球部門男子団体	優勝
バドミントン部門女子団体	優勝
剣道部門女子団体	優勝
バドミントン部門男子団体	準優勝
水泳部門男子団体	準優勝
バレーボール部門男子団体	準優勝
剣道部門男子団体	3位
水泳部門女子団体	4位
軟式庭球部門男子団体	5位
弓道部門男子団体	5位

### 総合成績

順位	大学名	得点
優勝	愛知学院大学歯学部	187
準優勝	日本大学歯学部	152.5
3位	東京歯科大学	131
4位	大阪歯科大学	112
5位	日本大学松戸歯学部	94.16

### 入賞部門の順位とポイント

部門名	順位	Point
バドミントン部	優勝	21
陸上競技部	優勝	19
軟式庭球部 (ソフトテニス)	優勝	15
水泳部	準優勝	14
剣道部	3位	12
スキー部	3位	11
ボウリング部	4位	5
硬式庭球部	5位	10
サッカー部	5位	10
バレーボール部	5位	7
ヨット部	5位	1
弓道部	6位	6

### 個人成績 優勝者

部門名	種目名	学生氏名(学年)
スキー部門	男子個人総合	木村 翔馬(4年)
〃	男子個人回転競技	木村 翔馬(4年)
〃	男子個人大回転競技	木村 翔馬(4年)
〃	男子個人スーパー大回転競技	木村 翔馬(4年)
陸上競技部門	男子110ハードル	浅井 雅敏(5年)
〃	男子4×100mリレー	浅井 雅敏(5年), 木村 翔馬(4年), 河合 章太(4年), 松崎 和磨(2年)
〃	男子走幅跳	松崎 和磨(2年)
〃	男子三段跳	松崎 和磨(2年)
〃	男子円盤投	谷口健太郎(2年)
〃	女子800m	多田 恵子(5年)
〃	女子3000m	多田 恵子(5年)
水泳部門	男子200mリレー	長谷川大悟(6年), 白取 佑智(2年), 加藤 禎彬(1年), 西村 達郎(1年)
〃	男子50m背泳ぎ	加藤 禎彬(1年)
〃	女子100m平泳ぎ	伊尾 歌織(5年)
〃	女子50mバタフライ	高橋 彩(1年)
軟式庭球部門	女子ダブルス	池田 朋子(5年), 大山 陽子(5年)
剣道部門	式段以上の部	和田 朗(3年)
バドミントン部門	シングルス	鈴木 春菜(衛2年)
卓球部門	新人戦	金谷 佳明(2年)

個人成績 準優勝者

部門名	種目名	学生氏名 (学年)
陸上競技部門	男子400mハードル	松崎 和磨 (2年)
〃	男子4×400mリレー	浅井 雅敏 (5年), 木村 翔馬 (4年) 河合 章太 (4年), 松崎 和磨 (2年)
〃	女子100m	鈴木 貴子 (2年)
〃	女子200m	鈴木 貴子 (2年)
〃	女子400m	鈴木 貴子 (2年)
〃	女子4×100mリレー	松本 亜弓 (4年), 李 學瑩 (3年) 鈴木 貴子 (2年), 永井 里歩 (1年)
水泳部門	男子100m背泳ぎ	白取 佑智 (2年)
〃	男子200m背泳ぎ	白取 佑智 (2年)
〃	男子200m個人メドレー	西村 達郎 (1年)
〃	男子200m自由形	加藤 禎彬 (1年)
〃	男子400m自由形	加藤 禎彬 (1年)
〃	男子50m自由形	西村 達郎 (1年)
〃	男子50mバタフライ	西村 達郎 (1年)
〃	女子50m平泳ぎ	伊尾 歌織 (5年)
軟式庭球部門	男子ダブルス	柳田 治朗 (5年), 武内 新 (6年)
剣道部門	式段以上の部	石田 圭太 (6年)
ヨット部門	スナイプ級	崔 大煥 (4年), 前田 千晶 (4年)



## 第42回東歯祭開催

平成22年10月30日(土)～31日(日)の両日、第42回東歯祭が開催された。

今年のテーマは「TDC120」で「TはTRY…様々なことへの挑戦」, 「DはDREAM…夢に向かって」, 「CはCHANGE…意識改革」, そして「120は創立120周年の節目の年」と掲げて、星野立樹東歯祭実行委員長(3年)を筆頭に実行委員が構成され、お祭りの成功に向けて企画・準備・運営にあたった。

今年はこの時期には稀な季節外れの台風が発生し、関東地方に接近・上陸の影響を受け、残念ながら初日に予定していた屋外で行われる模擬

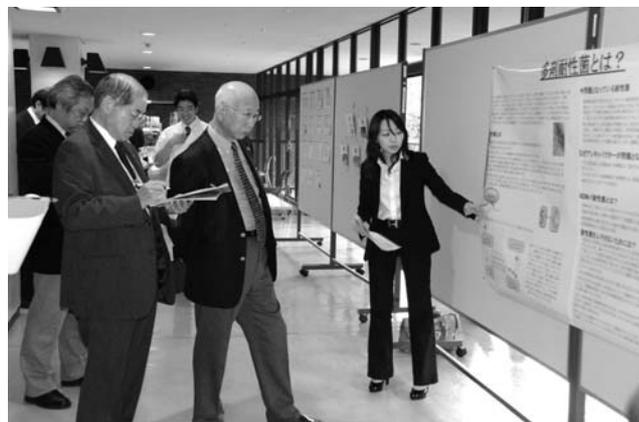
店、競技会はすべて中止、野外ライブ等のイベントは屋内に会場を移動して実施された。

心配された2日目は雨模様ではあったが、模擬店、競技会の中止も解除され、出店クラブ等の部員が苦勞して作った料理や混声合唱部、管弦学部、MLS部、ビッグバンドジャズ部が日頃の練習の成果を披露。

近隣の県立千葉西高等学校吹奏楽部の演奏会、児童によるちびっこダンスやテレビでお馴染みの人気タレント「U字工事、山本高広、麦芽」による芸人お笑いライブ等が催され、多数の来場者を湧かせた。

また、貴重な資料を持つ解剖標本室や本学創立者の高山紀齋先生、建学者の血脇守之助先生、世界的に著名な野口英世博士に関する収藏品等を展示する図書館史料室や各クラブの社会奉仕活動の内容や成果、講座における学生の研究成果等の展示、歯科衛生士専門学校の学生によるブラッシング指導や臨床系大学院生の協力による無料歯科相談などが実施された。

毎年好評のバザーでは、得られた売上金を本学国際医療研究会と活動交流を持つ特定非営利活動法人シェア(国際保健協力市民の会)に全額を寄付した。



## 東京歯科大学 創立120周年記念 学生行事開催

創立120周年記念事業学生関係行事が平成22年11月1日（月）幕張のアパホテル&リゾート東京ベイ幕張において開催された。当行事は第1～6学年の全学生800有余名が一堂に会する行事として、本学の行事でも過去に前例がないスケールで開催され、創立120周年記念事業の最後を飾るに相応しい記念すべきイベントとなった。

当日は早朝より局地的な豪雨に見舞われ、開催に影響が生じる恐れが懸念されたが、交通機関に若干の乱れが生じたものの、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、大山萬夫同窓会長、鈴木千枝子父兄会長にご臨席いただき、午後2時から特別講演会、午後4時から懇親会が予定どおり実施された。

最初の特別講演会では、プロ野球メジャーリーガーのイチロー選手やプロサッカー選手日本代表の中村俊輔選手、アテネ・北京オリンピッ

クの金メダリストで水泳界のスーパースターと称されている北島康介選手などの指導にあたられている、メンタルトレーナーで日本心理学会認定心理士の高畑好秀氏に「本当のプロフェッショナルになるために～イザという時に100%の実力を発揮するメンタルトレーニング～」と題した内容で講演いただき、日頃から学生達が対抗試合や、定期試験など本番で、緊張や動揺することなく本来の実力を遺憾なく発揮できるよう、一流のアスリート達に指導した豊富な実績と経験を基にご講演いただいた。講演では、実際に学生も登壇し、設定した条件を具体的に体験させて感想を聞くなどのパフォーマンスも行われ、興味溢れる内容となった。

特別講演会後の懇談会では、ダンス部のパフォーマンスやビックバンドジャズ部による演奏、また創立120周年記念のお祝いに花を添える豪華



賞品抽選会が行われた。賞品には、若者に人気の iPod touch や iPad, Wii, 一眼レフデジカメ, 美顔器などの他、理事長賞・同窓会長賞・父兄会長賞としてそれぞれ HDD 内蔵デジタルテレビ, 学長賞としてブルーレイディスクレコーダー&デジタルテレビセットなどの豪華賞品が公表され、当選した学生達の歓喜に釣られるかの如く懇親会は異様な盛り上がりで包まれていた。最後は混声合唱部が整然と校歌を斉唱して学生記念行事を締めくくった。退場の際東京歯科大学父兄会のご厚意により製作された創立120周年学生行事記念品のスポーツタオルが配られ、学生達は笑顔で会場を後にした。



# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ [http : www.tdc-tdc-alumni.jp](http://www.tdc-tdc-alumni.jp) にも掲載されています。日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日時	演題及び講師 又は事業内容	会場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成23年 2月11日 (金・祝) 午後3時～	「基礎研究は役に立つ?それとも 事業仕分けの対象?」 竹居孝二先生 (岡山大学大学院医歯薬学総合 研究科 医学部 生化学 教授)	岡山プラザホテル 岡山市中区浜2-3-12 TEL 086-272-1201	岡山県支部 連絡先 学術幹事・居樹秀明 TEL 086-264-8241	支部会員 同窓会員

## 九州地域支部連合会

平成22年10月16日(土)佐賀県武雄市にて九州地区歯科医学大会が開催され、同日午後6時より武雄温泉・東洋館にて東京歯科大学同窓会九州地域支部連合会総会・懇親会が開催された。来賓として大学より大学院歯学研究科長井上 孝先生、同窓会より梅村長生先生、臼井文規先生、九州地域支部理事濱田孝一先生に来ていただいた。

まず今年度総会までに亡くなられた川上 晃先生(長崎県)、深山 實先生、大門清美先生(福岡県)、

井内正浩先生、久野 勇先生(佐賀県)、柳川一征先生(大分県)、添島義和先生(熊本県)へ黙祷を捧げ、佐賀県支部長副島洋二先生の開会の挨拶の後、梅村先生、臼井先生より同窓会の役割、意義、今後の活動についてのお話をいただいた。その後、井上大学院研究科長よりCGを使ったスライドにて水道橋移転後のキャンパスの配置などが紹介され、移転への現状今後のスケジュールとその必要性についてのお話の後、現在の学生のカリキュラム紹

介、国家試験対策、研究機関としての大学の取り組みなどを詳しくお話を頂いた。続いて佐賀県、飯田正一先生(S35年卒)の乾杯で懇親会の宴が始まった。佐賀の銘酒、海の幸、山の幸が次々運ばれ、テーブルは卒業年別に並べられており旧交を温め、終始和やかな雰囲気の中進められ、最後は恒例の校歌斉唱を全員で行い散会した。

今回、主管された佐賀県支部の先方準備作業お疲れ様でした。

(新富芳浩 記)



## 群馬県支部

### 平成22年度定時総会

平成22年度群馬県同窓会定時総会が、平成22年7月11日(土)午後3時より伊香保の千明仁泉亭に於いて開催されました。来賓として、同窓で群馬県歯科医師会会長の川越文雄先生をお迎えしました。真下泰彦副会長の開会の挨拶が行われ、他界された天田治男先生に黙祷が捧げられました。次に、清見能久同窓会会長より挨拶が行われ、総会においての慎重審議、学術講演会での研鑽についてお話がありました。次に、顧問の富澤憲男先生より挨拶が行われ、東京歯科大学が創立120周年を迎え、水道橋移転の話もでていますが「医は仁なり」の精神を継承していただきたいというお話をいただきました。続いて、来賓の川越先生より挨拶が行われ、群馬県歯科医師会の新法人改革に伴う総会や共済部につい

てのお話をいただきました。そして、次に、平成21年4月から総会までの庶務報告が行われました。次に、総会議長に森下正教先生が選出され、平成21年度事業報告、一般会計および福祉共済部会計決算、群馬県同窓会会則の改定が議題として提出され、全て満場一致で可決承認されました。そして、引田正俊副会長より閉会の挨拶が行われ、総会は無事終了しました。

引き続き、同会場にて学術講演会が行われました。講師には同窓で、現在、独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター歯科口腔外科医長の高崎義人先生をお迎えし、「内科系薬剤服用患者の歯科治療」という演題で行われました。特に、ビスフォスフォネート服用者への歯科治療についてのガイドラインや脳梗塞や心疾患等を有する抗血栓療法患者



の休薬に関するガイドラインについて、詳しくお話いただきました。

学術講演会終了後、記念撮影を行い、正木光児先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。来賓として同窓で現在、国際医療福祉大学教授の朝浪惣一郎先生をお迎えしました。終始なごやかな雰囲気の中で、お互いの親睦を深め合い、最後に校歌を斉唱してお開きとなりました。

(三丸 潔 記)



## 横浜鶴見支部

### 鶴見東歯会 会員旅行

9月19日(日)から1泊で12名参加のもと、特急に乗って水戸へ出掛け。午前11時すぎ水戸に到着。ジャンボタクシー2台に分乗し日本三大稲荷のひとつ笠間稲荷神社を散策。「酒」の看板が目に入り「松緑」なる日本酒を試飲。「こっちの方が旨い。大吟醸はやっぱり違うな〜」とほろ酔い。「すぎのや笠間店」では稲荷寿司と天ぶらを楽しむ。その後、笠間焼の窯元で晩酌用のお猪口を探して、宿泊先の水戸京成ホテルへ。夕飯まで各々部屋でゆっくりと過ごした。

午後6時30分より、100年以上続くという老舗の割烹「鰻亭」において、本年めでたく喜寿を迎えられた香山欣哉先生と還暦を迎えられた森田正純先生のお祝い会が行われた。

酒井真一会長の挨拶の後、両先生にお祝い品の目録が贈呈された。目録の中身は、どちらも釣り好きの先生に打ってつけ、片瀬江の島「高清」の釜揚げしらすを含めた高級ひもの一式。続いておふたりから謝辞があり、吉田礎久先生の発声で乾杯へ移った。松茸の土瓶蒸しから鮮度抜群な刺身に舌鼓を打ち、祝い酒も

進んだ。美人コンパニオンもお祝いに駆け付け大いに盛り上がった。ふっくらとした鰻重が運ばれた頃、参加した会員からお祝いの言葉が述べられた。また、神奈川県支部連合同窓会杉之内専務理事からもお祝いメッセージが届き、両先生は目を細められて満面の笑み。デザートは程良く熟したメロンをすくい上げ、満腹。お酒もすっかり回り、お次は「のど自慢」の店探し。マイクを取りあって秋の夜長を歌い込んだ。

翌朝は9時にジャンボタクシーに乗り込み、偕楽園、徳川美術館と千波湖畔にある映画「桜田門外ノ変」(10月16日より全国映画館で公開

中)のオープンロケセット記念展示館を見学。

昼食は「五鐵夢境庵」で軍鶏料理を頂く。砂肝の刺身など珍味を水戸の銘酒とともに。軍鶏鍋を突っ突き、締めは雑炊で。出汁の旨味がしっかり出て美味。帰りの列車の時間が近づき足早に駅へ。名物の水戸納豆や梅ようかんの土産と車中宴会用のワインとブルーチーズを買い込み特急に乗車。旅の疲れが出てぐっすり眠り込む者もいれば、盛り上がりを保ちつつ酒盛りする者もあり車窓も眺めず終着上野に到着。自由解散となった。(宇佐美貴弘 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

## 横浜西部支部

### 一泊総会・懇親会

平成22年10月20日(水)、戸塚区の佐々木智則君、平久由佳君、武居純君、小生が幹事となり、熱海大月ホテル和風館において、総会が開催された。今回は会員18名の参加があった。

午後5時より、学術講演会が行わ

れた。今回は、東歯同窓会員の浜野弘規先生による「南区浦舟町に開業して1年余り…～病因論として『食生活』を考える～」との演題にて、講演が行われた。

講演会終了後、総会が開かれた。島田英明支部長の開催の挨拶が行われた後、高階光博君より、県連合同

窓会の報告がなされた。再び島田支部長より、会務報告がなされた後、水口浩司君より、会計現況報告がなされた。

総会終了後は、宴会場へ場所を移し、島田支部長の挨拶の後、佐藤卓朗君の乾杯の発声で宴に入った。皆、終始なごやかな雰囲気の中で、お互

いの親睦を深め合い、最後に佐藤信之副支部長の閉会の辞をもって終了となった。その後、会員全員で記念写真を撮り、皆、2次会へと消えていった。(中島清司 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

## 神奈川相北支部

### 平成22年度総会

平成22年11月6日(土)、小田急ホテル相模大野にて相北支部総会が行われた。当日は会員20名の出席があり、講演会の講師として、本学副学長井出吉信教授をお迎えした。

総会は、高橋捷治支部長の挨拶に始まり、村山正之議長のもと、片野好正理事の庶務報告、大塚哲也理事の会計報告、小島正裕監事から監査報告がなされ、すべて承認された。

講演会は、“大学の近況と水道橋移転について”の演題で、井出副学長より講演があった。とくに大学入試の厳しい現状、本学も油断できない状況であること、そしてそれに伴う水道橋移転に関する内容であった。会員の関心は寄付金にあるようであったが、新血協記念ホール建設のために使われるとの説明があり、会員からは、同窓として本学のために協力しようという声が多くあった。そして、ひとまず閉会のあいさつが関戸幹夫副支部長より行われ

た。

懇親会は、はじめに、加藤木 健 神奈川県支部連合同窓会会長の挨拶があり、その後、長老の中村昭仁先生の乾杯の発声で始まった。

今回は体調の悪い先生方が多く、いつもより少し人数が少なかったが、全員からスピーチをしてもらい、恒例の抽選会ではコンビニのプリペイドカードを当てた人達もい



て、和気あいあいの楽しい時を過ごした。(新倉良一 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

## 京 都 府 支 部

平成22年7月10日(土)、祇園白川の“京新山”において、東京歯科大学同窓会京都府支部総会が行われた。

まず、本年より就任された永田賢司会長より挨拶があり、本会は少人数ではあるが皆が参加したくなるような充実した同窓会活動を行うと同時に、現在会員減少の折、その状況を打開すべく京都府内の病院で研修を行っている若い同窓会員にも積極的に声掛けを行っていくことであった。続いて、中尾篤司会計より会計報告があり、満場一致で承認された。また、西村眞治副会長からは、先般行われた近畿連合同窓会支部長会議の報告があり、近畿連合同窓会の開催年次の変更や、今後の活動方針についての説明がなされた。

その後、学術講演会として中尾篤司先生が“訪問診療について”と題して講演を行い、訪問診療における治療方針やどのような取り組みを行っているかを詳しく解説され、残根菌の扱い方、口腔ケアの重要性と

ともに、患者の介護にあたる家族とのかかわりにも言及された。また、歯科衛生士によるケアについても解説があり、参加会員からも様々な質問が寄せられた。

続いて、対馬具海幹事の乾杯の音頭で宴席に移ったが、当日は祇園祭の諸行事のひとつ、神輿洗いが四条

大橋付近で行われており、その大いなるにぎわいを遠くからではあるが祇園側から見物ということとなり、夜の暗がりには浮かぶ松明の幻想的な炎と、対岸に納涼床の並ぶ鴨川を眺めながらそれぞれに杯を片手に親睦を深め合い、盛会のうちにお開きとなった。(河野多聞 記)



### 訂正とお詫び

会報「第378号」に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

P 30 追悼・久野 勇君を偲んで右段下から2行目

正：最後はこの母なる大地に 誤：最後はこの内なる大地に

### 実家、自宅にかかる「同窓会名簿」電話に御用心

以前から、東京歯科大学同窓会理事や同窓会関係者のように装って、書籍等を売りつける商法が同窓会に報告されています。くれぐれもご用心ください。

また最近同窓評議員と名乗り、名簿作成のためとって電話番号、携帯番号を実家、自宅から聞き出すといった電話がかかっています。

同窓会名簿の作成は5年後の予定です。怪しいと思った時には同窓会本部までご連絡下さい。またご実家、ご自宅の方へもご注意よろしく願いいたします。

## 熊本B級観光地（草枕の路）

### 熊本県

山路を登りながらこう考えた。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく人の世は住みにくい。……」明治の文豪夏目漱石が第5高等学校の教師として赴任し、熊本市から玉名市の天水温泉への旅を後に小説「草枕」に書いている冒頭の部分です。熊本の観光地と言えば阿蘇山、熊本城、黒川温泉などが有名ですが、ちょっとマイナーなコースを紹介します。夏目漱石が歩いた道は、現在「草枕ハイキングコース」として残っています。起点の熊本市西方の金峰山（655m・一の岳）の山麓には本妙寺（加藤清正の菩提寺）、島田美術館（宮本武蔵の肖像画他ゆかりの品々を所蔵）、慈恵病院（赤ちゃんポスト・こうのとりゆりかご）があります。急な坂を登りつめた峠には、「峠の茶屋」が復元され



鳥越の峠の茶屋

ています。金峰山山頂近くまでは車で登る事が出来ます。山頂から東を望めば眼下に熊本市街を、遠方には阿蘇山をはじめ九州脊梁の山々を、又反対側に目をやれば有明海が一面に広がり、雲仙岳、天草の島々を眺望出来ます。そして西側中腹には、剣豪宮本武蔵が籠って「五輪の書」を書いた霊巖洞・五百羅漢があります。峠から二の岳・三の岳を目指し、なだらかな坂道を北へ向かうとそこは山腹全体がみかん畑で国内で



五百羅漢

も有数の産地となっています。二・三の岳の反対側には日本最後の内乱の地「田原坂古戦場」があり、近所には官軍墓地やいろいろな史跡が点在しています。斜面を有明海に向かって下ればコースの終点の那古井の温泉場（小天温泉）です。其処からさらに足を延ばせば史跡豊富な玉名温泉、北隣荒尾・大牟田には「世界遺産」を目指している旧三池炭鉱関連の近代化産業遺産群があります。来春、新幹線が鹿児島まで全線開通したら九州熊本が更に身近になることでしょう。

（昭和51年卒 福嶋修治）



鳥越の峠の茶屋看板



有明海の干潟と雲仙岳



田原坂古戦場跡



本妙寺加藤清正像



霊巖洞



旧三池炭鉱万田坑

# クラス会だより

## 一期会

昭和28年卒

猛暑、残暑と引きずっていた夏もやっと去り、秋らしくといっても雨模様の10月9日帝国ホテルレセゾンで一期会総会が開かれた。

久しぶりに出席の香山君を含め18名の参加を見た。

1組を残し全員集まったので、定刻12時30分に見明君の開会で総会は始まった。(未着の尾上夫妻は体調に自信がないと聞いていたので心配したが、単に渋滞に巻き込まれた為の延着で宴会直前に到着した)

この一年の間に亡くなった田中道章君、三宅昭典君の霊に黙祷を捧げた後、会は進められた。この度

は、総会最終回に当たるので、審議すべき議題もない為報告事項のみが、坦々と承認されて行った。最後に一期会に残った剰余金について、昨年改めた会則に従い会員に分配する旨会計の阿部君より報告があった。そして出席者には、この席で支払われ、欠席者には会計より後刻送金されることになった。

総会終了後、見明君にお願いして集合写真撮影を行い、そのまま懇親の宴席に移行した。押尾君の音頭で乾杯、最後の会にふさわしい美味しいフランス料理の数々に舌鼓を打ち乍、旧交を温めた。

これが最後の会かと思うと別れ難く散会は4時近くなった。

最後に一期会の運営を恙無く終える事が出来たのはひとえに役員の方の協力のお陰と感謝しております。

出席者(順不同、敬称略)

尾上吉之夫婦、阿部和雄、今井豊享、哇森公望、小汲喜郎、押尾良悦、香山和美、小池将浩、島野達也、高橋茂生、高松智三、西山巖、兵藤佐一、見明 清、山本勝一、吉田 浩、多胡 彬

(多胡 彬 記)



## 八 紫 会

昭和35年卒

### 50周年記念総会

昭和29年春4月、我々は旧制予科の最終学年として、市川のあの幼稚園を思わせる東京歯科大学予科に入学した。6年に渉る勉学と幾多の経験を経たのち、昭和35年3月に無事卒業し、国家試験をすませ、各人がそれぞれ目ざす方面に進んで行ったのであった。

以来半世紀の星霜がすぎ、今年で卒後50周年を迎えたのである。この間一年たりとも八紫会を中断したこともなく、無事今日を迎えたのであった。他の学年からは羨望されたり、また不思議がられたりもしたようだった。

- 1) 会長(菊池 豊君)と会計担当(春原 肇君)が50年間交代しなかった。
  - 2) 総会を東京と地方とで隔年毎に開催し、各地を旅行する楽しみがあった。
  - 3) 予科時代のクラスを学部進級時に編制しなおしたために人間関係が広まった。
- 以上のような理由も考えられる

が、51周年以後を目ざして頑張って行きたいと、多くの仲間が思っている。

本年度の総会は、神奈川県と同級生のお骨折りのもと、横浜で開催された。

10月9日(土)：於横浜中華街・萬珍楼

クラスを担当していただいた中久喜喬先生の御出席をいただき、総勢47名出席のもと開会された。総会では、病床にある菊池会長の挨拶文を代読したのち、過去1年間に鬼籍に入られた学友(久野 勇、中島武男、天田治男の三君)のため、全員で黙祷をした。次いで51周年の総会は熊本(中根俊吾君主催)で行われることが決定された。続いて、例年のように一番遠距離からかけつけてくれた長崎の渡邊修志君の乾杯のあと、横浜一と言われる萬珍楼の料理で盛大な懇親会が開かれた。宿泊したヨコハマ・グランド・インターコンチネンタルホテルのバーでは二次会、三次会?でにぎわったようだ。

10月10日(日)：

バスにて、三溪園その他の横浜市内散策後東京へ。屋形船にて隅田川めぐりをした。宿泊は浅草ビューホテル。

10月11日(祝)：

有志によるゴルフコンペ、若洲ゴルフクラブ。

以上、22年度の八紫会は終了したわけであるが、二泊三日に渉るクラス会に大勢の人々が出席出来たのは、過去50年に及ぶ努力の日々に対する御褒美のかなと思いつつも、今後の日本の行方に一抹の不安も覚えた。

それにつけても、中久喜先生始め皆さんの酒の強くなったのには驚かされた。特に屋形船による船遊びには、3人の地元の若い芸者が同乗したせい、その酒量は半端ではなかった。後期高齢者になってもこの勢いでは、今後まだまだ八紫会を続けることも絵空事ではなくなったようだ。

来年も熊本で会いましょう。

(宮下恒太 記)



# 富 巳 会

昭和40年卒

## 懇親クラス会

10月3日、新宿京王プラザホテルに26名が集まりました。50代の時、前後のクラスに比べ逝去者が異常に多い時期があり、“呪われたクラス”など陰の声も聞かれるようでした。幸いここ数年はかえって逝去者も無い或少いかで推移し、安堵しています。

恒例の総会を伴ったクラス会は、隔年全国各地を持ち回りで開催しておりますが、我がクラスも来年3月には全員古希を迎え、体調不良で遠距離の移動も不便になる会員も数が増えています。2年前、東京幹事の会合で「隔年では参加出来なくなる会員が多くなるので、地方からの往來の便利な東京で総会の際の年に懇親会を開催」と話がまとまり実行しました。

一昨年初回は40名近くが集まりま

ずまずの盛会でした。今回も最初の意向調査では20名以上が参加が確定し、希望を含めると50名近くになっていました。直前の回答でも40名近くが参加予定でしたが、1週間を切った頃より変更のFAXが届くようになり、最終26名となりました。

今回不参加を余儀なくされた理由が本人の入院や体調不良がかなり多く予測の通りでした。仏事も多く、我々の年代が早くも祭祀を司る長老の部類に入ったようです。そして時代を映しているのが家族の介護でした。両親、配偶者はもとより叔父叔母までの面倒を見ており、宿泊を伴う外出が出来ない旨の不参理由も複数有りました。

会は東京での慣例？石山君の司会、大井会長の挨拶、臼井幹事長の経過報告、丹羽会計幹事の会計現況報告に続き、来年開催地栃木県の縣



君の乾杯でスタートしました。

間に加藤さんの踊り（写真）を挟み出席者全員の現況報告が時間をオーバーして行われました。ついで会場を移して二次会はカラオケで盛り上がり、9時過ぎ散会しました。

追記：鹿児島在住の有川君の持参してくれる「焼酎」特別に美味で参加者待望の一品、2本も差し入れ有り、飲み放題のホテルの酒殆ど消費せず！

（小林伯男 記）



# 志 学 会

昭和42年卒

子曰く、朋あり遠方より来たる、また楽しからずや。旧友と再会出来る同期会程楽しい集いがあるか。本年の志学会は鳥羽市鳥羽国際ホテルにて、愛知三重合同幹事により執り行なわれた。10月9日当日我々の願いも空しく朝からお天気は荒れ模様であった。時折りの雨が叩きつける中、恒例のゴルフコンペは強行されたが敢えなくハーフで中止となった。這う這うの態でホテルに戻ると、案の定会員諸氏より延着の報が入り始めた。それでも定刻どおり総会は開始され、いつものパターンで進められた。特に、前副学長の薬師寺 仁先生より水道橋新校舎のお話があり、次回開催地の山形県中川正晴先生の山形弁でのPRで締め括りとなった。続いて海城の間に移動して懇親会の運びとなった。この頃より外は本格的な災害の様相を程し始め、4～5人の先生が未到着であった。鳥羽市内は膝まで冠水

し、栈橋に停泊中の大型ヨット2艇が沈没等の情報が入り不安が募った。しかしその後、遅れていた先生方も無事到着されて一安心。安城市の加藤 強先生の歓迎挨拶で始められ、県政連会長の江南市の伊藤英紀先生による乾杯の御発声と続いた。伝統の伊勢音頭を観賞しながら美酒に酔い海の幸を満喫した。途中から思い出の写真や現況を写つしたスライドを上映し、その中に川崎市の古賀克隆先生の小学校の修学旅行の集合写真があり、あの坂本 九と一緒に写っていた一幕もあって、おおいに盛り上がった。2時間すぎた所で蒲郡市の梅村和弘先生のメの挨拶でお開きとなった。翌朝は抜ける様な秋晴れとなり、60余名満杯のバスで鳥羽観光に出発した。まずは内宮に参拝すべく、架け替られたばかりの宇治橋を渡り、境内に入って行った。その時見えた五十鈴川は濁流と化し、前夜の雨のものすごさを物



語っていた。神楽殿に上がり神楽の奉納御祈禱を受け、外宮を回わり、秋の伊勢路を相差へと向かった。その海女小屋でイセエビ、大アサリなど鱈腹食べ、帰りに真珠島へ寄った。秋の日は瓶落し。

近鉄鳥羽駅に到着する頃には日暮れが迫り、辺りには冷たい風が吹き始めていた。皆ここで別れを告げ、三々五々家路へと急いだ。短かい2日間であったが皆様にはお楽しみいただけたでしょうか。それでは又、再会を約して。Aufwiedersehen (愛知県担当幹事 盛田陽一郎 記)



# ひとは会

昭和45年卒

秋の風情漂う新潟県新発田市の月岡温泉で、平成22年10月9日33名の出席をえて、「ひとは会」が開かれました。JR新潟駅に集合した時から、懐かしい顔に出会えて心がなごみ、迎いのバスに乗り込めば気持ちはすぐに学生時代に戻りました。

新潟空港で広島からの林夫妻等を加え、見はるかす広大な越後平野の中を走り抜け、まず老舗の酒造元を見学しました。酒蔵の巨大な樽に驚き、米どころの別格な利き酒を楽しみ、早くもお土産の品選びをしたのち、全国でも屈指といわれる華鳳ホテルに到着しました。

国際会議が開けそうな立派なホールで、4時30分から馬橋副会長の司会、奥村さんの開会の辞、高橋二郎会長の御挨拶で総会が厳かに始まりました。井原議長の進行で、物故会員に黙祷をささげ、大学の現況報告があり、馬橋世津子さんが会計報告をしてくれました。

今回の開催地の議題では、前回の青森での幹事・板垣さんの素晴らしいもてなしぶりが話題となり、リンゴ園に思いを馳せました。2年後は東京近辺にし、さらなる参加者の増加を期待したいとの意見があり、閉会の辞は丸井副会長がたおやかに述べてくれました。

その後、絶大な健康効果を誇る、硫黄を含んだ温泉を浴びたのち、6時から大広間での宴会となりました。美味しい山海の珍味と、友人との語らい、そして地元の芸者さんによる佐渡おけさの舞踊等で、あっという間にときが過ぎました。

最後の各人の近況報告では、鼓童の太鼓に燃えている人、老人施設の運営に情熱を傾ける人、ストレッチを披露する人、これから歯科医療に張り切るといふ人、そして子息に仕事を任せたといふ人など様々で、沢山の人生をいっぺんに経験したような、充実した時間でした。



2次会は幹事さんの部屋で、より打ち解けた雰囲気となり、娘・息子のパートナー選びの話から、経済のことまで談論風発という感じでした。

翌日は好天に恵まれ、佐渡に行くグループ、所用で帰る人等、名残を惜しみながら再会を約しました。

刈り終へし豊けき田居と 山並みの  
月岡の湯に ころ癒せり  
(山本美智子 記)



# すいどうばし

## 思い出（大学院設置の頃）

水川 秀海（昭和34年卒）

私は昭和28年母校に入学し34年に卒業しました。この間における大きな出来事は福島秀策先生の学長就任と大学院の設置です。

血脇守之助先生からバトンを受けて大学昇格を果し学長兼理事長であった奥村鶴吉先生が大学院設置を前にして病に倒れ再起が危ぶまれた事は一大事で後継者の決定が大きな問題となりました。この時、大正5年母校卒の福島秀策先生が血脇・奥村両先生の精神を継ぐ人として学内外からコールが沸き上がったのです。なぜそうなったのでしょうか。話は昭和3年にさかのぼります。

昭和3年5月野口英世博士が殉職し、その直後から伝記出版の動きがあり奥村先生の手で「野口英世」が岩波書店から出版されることになりました。この本が学歴階級社会が存在した戦前に岩波から出版される事は東菌の同窓には特別の感慨がありました。岩波は一流出版社ですが当時はさらに別格でした。人格形成や社会改良のための読書による教養主義は当時の大卒知識階級に君臨しその人達は岩波の本を読む事になっていたからです。その岩波から、あの野口さんの伝記が、奥村先生の手で出版されるのです。同窓はこぞって奥村先生に浄財をとどけました。

「野口英世」編纂に要する費用のすべてがこれでまかなわれました。野口伝は奥村先生の著作ですが奥村先生を支えたのが福島先生で奥村・福島の名コンビなかりせばこの本の誕生はなかったかも知れません。同窓の多くがこの事を知ってしまし

た。伝記出版後もこの名コンビは知る人ぞ知る存在でした。また福島先生は生徒監（現在の学生部長）として学生に密着した先生として在学生のみならず同窓に高い人気がありました。その後福島先生は昭和14年にハルピン医大歯科主任として渡満、そこで終戦を迎えました。当時ハルピンには10万人もの日本人がいましたが人望の厚かった先生は日本人内地引揚の世話役となり、その後中国政府から日本人残務整理委員として留用を命ぜられました。強制留用で帰国の目処はありませんでした。同窓やハルピン帰国者を中心に帰国運動が起り昭和28年に帰国が実現したのです。多くの人が先生の学内復帰を望み、昭和31年母校教授として復帰、先生の復帰を受けて大学院建設委員会に総務部が新たに組織され先生が部長となりました。先生は学内に起居し血脇・奥村時代の人脈を結集して活動を開始、計画は大きく前進したのです。昭和33年3月、先生はブラームスの音楽と共に学長に就任しました（式典が中央ホールで開かれブラームスの大学祝典序曲が流された）。私達は泰山の風格を有する新学長に大きな期待を寄せました。先生は期待を裏切りませんでした。文字通り全身全霊を傾けて大学の運営に努力されたのです。

新学長就任と同時に石河幹武理事が理事長に就任しました。この時より母校は学長と理事長が分離し今日に至っています。新理事長は財界で活躍している人でしたが慶応大の理事でもあり教学に理解のある方で適

任でした。元銀行マンの氏は古巣の三井銀行に足を運び融資の道を開きました。

新病院建設は大工事で街中にある母校では近隣の住人の理解と協力なくして不可能でした。説明にあたったのは福島新学長で当時「福島先生のお話しは誠実でよかった。私達は東菌さんのために一肌脱ごうと申し合いました」と近所の人からよく聞いたものです。これは福島先生の大きな功績です。先生はもともと誠実な人であった上にハルピンで幾度も困難な交渉を切り開いて来た経験が生かされたのです。昭和33年3月、大学院設置が認可されました。新病院は7階建てで当時高いビルは周囲になく港区あたりまで一望出来ました。東京タワーが建設中で一段また一段と高くなるのを遠くに眺めながらピッカピカのユニットに囲まれ快適な病院生活を送りました。

昭和34年3月25日、福島学長の「本学は訓ゆべきものは訓え、授くべきものは授けた」という告辞に衝撃を受けて学窓を後にしました。後にこの言葉こそ血脇先生が毎年卒業生に贈った言葉であることを知りました。この様に含蓄のある言葉は同窓の各自が自由に解釈すればよいと思いますが、私は「本学は諸君に知識や学問、技術等を単に切り売りしたのではない。君達に教え授けたものすべてが本学の学風の中で育まれたものだ、どうか東菌の卒業生であるという誇りをもって社会で活躍してもらいたい」という意味に解釈しています。

# 庶務日誌

11月

1) 理事会

11月26日(金) 第6回理事会

2) 委員会

11月1日(月) 募金関係打合せ  
 2日(火) 第58回全歯懇準備会  
 4日(木) 会長, 副会長連絡会  
 9日(火) 事業系ワーキンググループ  
 10日(水) 会長, 副会長連絡会  
 12日(金) 広報部委員会 (会報編集)  
 15日(月) 学術部委員会 (将来検討B委員会)  
 16日(火) 学術部委員会 (プログラム委員会)  
 17日(水) 情報部委員会  
 17日(水) 渉外部委員会  
 18日(木) 会長, 副会長連絡会  
 19日(金) 学術部委員会 (プログラム委員会)  
 22日(月) 学術部委員会 (企画委員会)  
 24日(水) 学術部委員会 (研修委員会)  
 29日(月) 学術部委員会 (フォーラム運営委員会)  
 30日(火) 保険部委員会

3) 出張

11月13日(土) 北海道地域支部連合会卒後研修会  
 講師・田中 収先生  
 (東歯51卒バイオインプラントアカデミー)  
 23日(火) 近畿地域支部連合会総会(滋賀県支部  
 担当) 宮地副会長, 高橋専務理事, 井口  
 理事出席  
 学術講演会 講師・江里口 彰先生  
 (日歯常務理事)  
 27日(土) 愛知学院大学歯学部創立50周年記念講  
 演会式典祝賀会 梅村副会長出席  
 27日(土) 熊本県支部総会 宮地副会長出席  
 学術講演会 講師・中川種昭先生(慶應  
 義塾大学医学部歯科口腔外科教室教授)  
 27日(土) 岡山県支部  
 学術講演会 講師・植野高章先生  
 (福井大学医学部口腔外科准教授)  
 28日(日) 愛知県支部総会 関副会長出席  
 28日(日) 九州歯科大学同窓会主催口腔保険  
 フォーラム 宮地・梅村副会長出席

4) 事業

11月7日(日) 事業系ワーキンググループ 若手同窓  
 支援セミナー2010  
 27日(土) 平成22年度評議員会・定時総会

12月

1) 理事会

12月8日(水) 第5回常任理事会

2) 委員会

12月1日(水) 学術部委員会 (研究部委員会)  
 3日(金) 広報部委員会 (会報企画)  
 6日(月) 第58回全歯懇準備会  
 15日(水) 情報部委員会  
 20日(月) 学術部委員会 (企画委員会)  
 22日(水) 学術部委員会 (研修委員会)

3) 出張

12月4日(土) 山梨県支部総会 関副会長出席  
 学術講演会 講師・安達 登先生  
 (山梨大学医学部法医学講座教授)  
 4日(土) 東京地域支部連合会総会  
 大山会長, 高橋専務理事, 早速理事出席  
 4日(土) 島根県支部総会 宮地副会長出席  
 学術講演会 講師・井川雅子先生  
 (静岡市立清水病院口腔外科)  
 4日(土) 愛媛県支部総会 田原常任理事出席  
 学術講演会 講師・高野伸夫教授(母校)  
 5日(日) 神奈川県支部連合同窓会  
 矢崎副会長出席  
 5日(日) 静岡県支部総会 梅村副会長出席  
 学術講演会 講師・田崎雅和教授(母校)  
 5日(土) 栃木県支部総会 大山会長出席  
 学術講演会 講師・原 克先生  
 (早稲田大学教育学部教授)  
 5日(土) 千葉県支部総会 高橋専務理事出席  
 10日(金) 日本橋支部総会 佐々木常任理事出席  
 11日(土) 茨城県支部総会 関副会長出席  
 学術講演会 講師・佐藤 亨教授(母校)  
 11日(土) 学術部委員会(全体委員会)  
 13日(月) 学術部委員会(運営委員会)  
 14日(火) 大学支部総会 河田常任理事出席  
 14日(火) 事業系ワーキンググループ

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 37 卒	添 島 義 和 (73歳)	22. 10. 2
熊本県支部	〒862-0975 熊本市新屋敷2-18-55	
●昭 34 卒	小 見 尚 (77歳)	22. 9. 29
新潟県支部	〒956-0814 新潟市秋葉区東金沢539-1	
●昭 33 卒	田 島 篤 治 (77歳)	22. 8. 17
茨城県支部	〒150-0001 渋谷区神宮前2-2-39-308	
●昭 11 卒	景 山 博 水 (96歳)	22. 10. 4
葛飾支部	〒158-0093 世田谷区上野毛4-16-17-311	
●昭 27 卒	渡 部 一 雄 (79歳)	22. 10. 13
牛込支部	〒146-0094 大田区東矢口2-13-18	
●昭 38 卒	池 上 武 正 (74歳)	22. 10. 18
栃木県支部	〒320-0847 宇都宮市滝谷町9-8	
●昭 27 卒	芳 賀 一 彦 (79歳)	22. 10. 18
横浜中央支部	〒222-0022 横浜市港北区篠原東2-10-8	
●昭 22 卒	西 村 正 雄 (84歳)	22. 10. 27
愛媛県支部	〒790-0003 松山市三番町4-5-8	
●昭 16 卒	太 田 稔 (92歳)	22. 10. 27
北多摩支部	〒359-0044 所沢市松葉町24-3 新所沢O・T・Aビル4F	
●昭 35 卒	川 上 強 逸 (75歳)	22. 10. 29
島根県支部	〒693-0001 出雲市今市町1401	
●昭 17.9 卒	大 畠 博 (89歳)	22. 10. 19
茨城県支部	〒308-0103 筑西市辻1332	
●昭 34 卒	宮 本 公 武 (80歳)	22. 10. 6
茨城県支部	〒312-0025 ひたちなか市武田930	
●昭 45 卒	山 脇 正 臣 (66歳)	22. 11. 9
岡山県支部	〒710-0816 倉敷市八王寺37-20	
●昭 19.9 卒	増 村 榮 一 (87歳)	22. 11. 9
新潟県支部	〒944-0042 妙高市東雲町4-5	
●昭 33 卒	林 健一郎 (77歳)	22. 11. 9
埼玉県支部	〒350-0051 川越市志多町2-10	
●昭 26 卒	上 村 長 威 (84歳)	22. 11. 15
鹿児島県支部	〒893-1402 肝属郡内之浦町南方198	
●昭 36 卒	若 尾 孝 (74歳)	22. 11. 14
山梨県支部	〒406-0024 笛吹市石和町川中島97-1 石和クレアールマンション704	
●昭 30 卒	牧 完 充 (83歳)	22. 11. 11
墨田支部	〒130-0011 墨田区石原1-37-4	
●昭 30 卒	椎 名 統 治 (78歳)	22. 11. 19
千葉県支部	〒273-0003 船橋市宮本7-21-6	
●昭 25 卒	西 山 忠 彦 (83歳)	22. 11. 22
静岡県支部	〒414-0027 伊東市竹の内2-9-10	
●昭 9 卒	大 岡 喬 (100歳)	22. 10. 11
福岡県支部	〒800-0225 北九州市小倉南区田原2-13-7	
●昭 20.9 卒	中 林 清 光 (87歳)	22. 11. 13
川崎支部	〒235-0045 横浜市磯子区洋光台4-31-25	

## ◆投稿規定

- (1) 原稿締切り  
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式  
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
  - ① 「すいどうばし」欄(随想、詩、短歌、時評など)は、1編1,600字程度
  - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
  - ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。  
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却  
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。  
写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

## ◆へんしゅうこうき

- ★ 早いもので今年も師走の慌しい季節を迎えました。紅葉がそろそろ見ごろだなどと感じている暇もなく、商店街ではクリスマスソングが流れています。つい先日お正月を迎えたような気がしてならないのは歳のせいでしょうか。
- ★ 12月4日のJRダイヤ改正で、東北新幹線が青森にまで延伸され、東京―新青森間が3時間20分で結ばれることになりました。今後は九州や北陸など全国の新幹線網が整備され、鉄道で日本中どこへでも簡単に短時間で行き来できるようになり、益々移動が便利になります。
- ★ 新幹線を始めとする日本の鉄道ダイヤの正確さも世界トップレベルで、諸外国では10分や15分の遅れは当たり前のことだそうです。今の日本は、政治がダメでも旅行のしやすさ、住みやすさなど、世界に誇れるものを多々持っています。イギリスの旅行雑誌のアンケート「満足度の高い世界の観光地」の国別部門で、日本が第一位に選ばれているのも頷けます。
- ★ 論語の一節「朋有り、遠方より来たる。亦た楽しからずや。」ではありませんが、諸外国や地方にお住まいの同窓の先生方と旧交を温める機会が増えることは楽しいことです。学会や講演会の折などに、同窓の先生方とお会いするのを楽しみにしている諸先生方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。
- ★ 本学の水道橋移転計画も、まさに正確なタイムスケジュールにしたがって着々と進行しつつあり、同窓会報でもその進捗状況をお知らせしようという計画があります。大学移転という一大プロジェクトを目前に、広報部員として今まで以上に少しでも同窓の先生方と母校との架け橋となるように努力しなくてはならないと思っております。来る年も同窓の先生方にとって素晴らしい一年となりますようにお祈りいたしております。  
(古澤 成博 記)

### 広報部委員会

委員長 三友 和夫  
委員 東郷 幹夫  
小池 修  
古澤 成博  
尾崎 圭子  
福井 雅之  
渡邊 宇一  
島田 篤

広報部担当理事 白田 準

平成22年12月20日 印刷

平成22年12月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第379号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 白 田 準

編集人 三 友 和 夫

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)

# 平成22年度 評議員会・定時総会

## (報告)

平成22年11月27日  
於 如水会館

### 平成22年度東京歯科大学同窓会評議員会 (午前10時00分～午後3時45分)

- |  |                  |  |
|--|------------------|--|
| 1. 開会の辞  | 第8号議案            | 会員資格等に係る東京歯科大学同窓会則一部変更を求むるの件                           |
| 1. 点呼  | 第9号議案            | 東京歯科大学同窓会緊急時歯科医師委嘱制度について                               |
| 1. 会長挨拶  | 第10号議案           | 平成23年度 事業計画  |
| 1. 来賓挨拶  | 第11号議案           | 平成23年度 入会金(現行本学出身の会員5,000円, 推薦会員50,000円)               |
| 1. 議長, 副議長選出   | 第12号議案           | 平成23年度 会費(現行18,000円)                                   |
| 1. 議事録署名人指名  | 第13号議案           | 平成23年度 経常部収支予算   |
| 1. 黙祷  | 第14号議案           | 平成23年度 共済負担金(現行3,000円)                                 |
| 1. 報告  | 第15号議案           | 平成23年度 特別会計収支予算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) |
| (1) 平成22年度 会務報告  | 第16号議案           | 平成23年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支予算                       |
| (2) 平成22年度 会計現況報告  | 第17号議案           | 平成23年度 時局対策費積立金会計収支予算                                  |
| (3) 東京歯科大学の現況報告  | 第18号議案           | 平成23年度 名誉会員の推薦   |
| ① 歯科大学環境を巡る諸問題   | 1. 協議            |  |
| ② 水道橋移転と学生教育の現状について  | (1) 同窓会の機構改革について |  |
| 1. 議事  | ① 執行部役員について      |  |
| 第1号議案 平成21年度 経常部収支決算   | ② 評議員会のあり方について   |  |
| 第2号議案 平成21年度 特別会計収支決算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) | ③ 地域支部連合会の役割について |  |
| 第3号議案 平成21年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算                       | ④ その他            |  |
| 第4号議案 平成21年度 時局対策費積立金会計収支決算                                  | 1. 叙勲, 褒章受章者顕彰式  |  |
| 第5号議案 平成21年度 財産目録<br>(監査報告)                                  | 1. 同窓会会長賞表彰式     |  |
| 第6号議案 財産(備品)廃棄処分   | 1. 閉会の辞          |  |
| 第7号議案 同窓会改革に係る東京歯科大学同窓会則一部変更を求むるの件                           |                  |  |

### 第116回東京歯科大学同窓会定時総会 (午後3時55分～午後4時35分)

- |  |         |                                  |
|--|---------|----------------------------------|
| 1. 開会の辞  | 第3号議案   | 平成21年度 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金収支決算 |
| 1. 会長挨拶  | 第4号議案   | 平成21年度 時局対策費積立金会計収支決算            |
| 1. 議長, 副議長選出   | 第5号議案   | 平成21年度 財産目録<br>(監査報告)            |
| 1. 議事録署名人指名  | 第6号議案   | 財産(備品)廃棄処分                       |
| 1. 報告  | 第7号議案   | 同窓会改革に係る東京歯科大学同窓会則一部変更を求むるの件     |
| (1) 平成22年度 会務報告  | 第8号議案   | 会員資格等に係る東京歯科大学同窓会則一部変更を求むるの件     |
| (2) 平成22年度 評議員会報告  | 第9号議案   | 東京歯科大学同窓会緊急時歯科医師委嘱制度について         |
| (3) 平成23年度 経常部, 特別会計, 卒後研修セミナー, 卒後研修セミナー積立金, 時局対策費積立金会計収支予算  | 1. 協議   |                                  |
| 1. 議事  | 1. 閉会の辞 |                                  |
| 第1号議案 平成21年度 経常部収支決算   |         |                                  |
| 第2号議案 平成21年度 特別会計収支決算<br>(同窓会基金, 血脇記念基金, 共済基金, 名簿積立金, 退職積立金) |         |                                  |

平成22年度東京歯科大学同窓会会務報告

(自 平成21年10月1日)  
(至 平成22年9月30日)

1. 現在会員数	9,066名	20日(火)	総務関係打合せ
内		22日(木)	厚生部委員会
名誉会員	29名	22日(木)	日本大学歯学部同窓会主催チャリ ティーコンサート 中島理事出席
共済負担金免除会員	744名	23日(金)	情報部委員会
高齢会員	520名	23日(金)	渉外部委員会
不明会員	747名	26日(月)	学術部委員会 (企画会議)
2. 会員の移動		27日(火)	保険部委員会
新入会員	121名	28日(水)	学術部委員会 (将来像検討委員会B)
	(本年度卒業生 120名)	31日(土)	北陸地域支部連合会総会 大山会長, 宮本理事出席
	(他 1名)		学術講演会 講師・山根源之教授(母校)
逝去会員	147名	31日(土)	島根県支部総会 神谷副会長出席
退会会員	3名		学術講演会 講師・二階堂雅彦先生(東 京都開業)
3. 会議		11月1日(日)	東歯祭 片倉副会長出席
評議員会	1回	5日(木)	東京地域支部連合会支部長会 大山会長出席
定時総会	1回	6日(金)	学術部委員会(プログラム委員会)
東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯 会長と同窓会役員懇談会	2回	7日(土)	六歯科大学歯学部校友会同窓会懇親会
地域支部連合会主催学術講演会等	8回	8日(日)	TDC 卒後研修セミナー [卒研フォーラ ム (No7 歯科医療の将来へ向けて~国民 歯科医療の充実とは~)]
学術講演会講師派遣	35回	11日(水)	広報部委員会 (会報編集)
理事会	7回	12日(木)	学術部委員会 (研究部委員会)
常任理事会	4回	14日(土)	全国歯科大学同窓・校友会懇話会 江崎副会長, 宮地・山本各理事出席
監査会	1回	14日(土)	山形県支部総会 服部副会長出席
各種委員会	165回	19日(木)	学術講演会 講師・黒田昌彦先生(東京 京都開業)
卒後研修セミナー	8回	19日(木)	情報部委員会
4. 役員出張	65回 (114名)	19日(木)	厚生部委員会ゴルフ大会委員会
5. 支部数	109支部	20日(金)	総務関係打合せ
6. 地域支部連合会数	11地域支部連合会	23日(月)	近畿地域支部連合会総会 (兵庫県支部 担当) 神谷副会長, 小室理事出席
北海道地域, 東北地域, 関東地域, 東京地域, 信越地域, 東海地域, 北陸地域, 近畿地域, 中国地域, 四国地域, 九州地域		27日(金)	学術講演会 講師・矢島安朝教授(母 校)
7. 会務報告		28日(土)	第4回理事会
平成21年		28日(土)	平成21年度評議員会・定時総会
10月4日(日)	TDC 卒後研修セミナー [基本技術セ ミナー (No6 1枚のX線写真からみられる こと~デンタル・パノラマX線撮影のコ ツと読影)]	29日(日)	静岡県支部総会 神谷副会長出席
10日(土)	第3回理事会	29日(日)	学術講演会 講師・平井義人先生(元東 京歯科大学教授)
13日(火)	広報部委員会 (会報企画)	29日(日)	東信支部総会
14日(水)	学術部委員会 (運営委員会)	30日(月)	学術講演会 講師・山根源之教授(母校)
16日(金)	学術部委員会 (プログラム委員会)	30日(月)	学術部委員会 (企画会議)
17日(土)	九州地域支部連合会総会 大山会長, 江崎副会長, 濱田理事出席	30日(月)	保険部委員会
19日(月)	学術部委員会 (研究部委員会)		
20日(火)	城東・深川支部合同学術講演会 (城東 支部担当) 講師・北村 一先生 (東京 京都開業)		

- 12月2日(水) 広報部委員会(会報企画)
- 5日(土) 山梨県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・関根秀志准教授(母校)
- 5日(土) 熊本県支部総会 江崎副会長出席  
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 5日(土) 茨城県支部総会 関専務理事出席  
学術講演会 講師・井上 孝教授(母校)
- 5日(土) 愛媛県支部総会  
学術講演会 講師・佐藤 亨教授(母校)
- 5日(土) 東京地域支部連合会総会  
大山会長, 高橋理事出席
- 6日(日) 神奈川県支部連合同窓会総会  
大山会長出席  
学術講演会 講師・金子 譲教授(母校)
- 6日(日) 千葉県支部総会 宮地理事出席
- 6日(日) 栃木県支部総会 片倉副会長出席  
学術講演会 講師・春日文子氏(国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部)
- 6日(日) 愛知県支部総会 神谷副会長出席  
学術講演会 講師・橋本雅範先生(愛知県開業)
- 7日(月) 全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会担当者会議(外来環検討委員会)
- 8日(火) 大学支部総会 大山会長出席
- 11日(金) 学術部委員会(運営委員会)
- 12日(土) 第5回理事会
- 14日(月) 情報部委員会
- 15日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 16日(水) 学術部委員会(運営委員会)
- 19日(土) 南信支部総会  
学術講演会 講師・杉山哲也講師(母校)
- 19日(土) 学術部委員会(全体委員会)
- 21日(月) 学術部委員会(企画会議)
- 22日(火) 学術部委員会(研究部委員会)
- 平成22年
- 1月5日(火) 総務関係打合せ
- 5日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 8日(金) 千代田支部新年会 大山会長出席
- 9日(金) 学術部委員会(運営委員会)
- 12日(火) 広報部委員会(会報編集)
- 13日(水) 学術部委員会(プログラム委員会)
- 16日(土) 第1回理事会
- 16日(土) 東京地域支部連合会新年交歓会  
大山会長出席
- 17日(日) 広島県支部総会  
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 18日(月) 学術部委員会(運営委員会)
- 19日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 20日(水) 学術部委員会(運営委員会)
- 21日(木) 学術部委員会(研究部委員会)
- 22日(金) 芝支部総会・創立70周年記念祝賀会  
大山会長出席
- 23日(土) 杉並支部新年会 片倉副会長出席
- 25日(月) 総務関係打合せ
- 25日(月) 学術部委員会(企画委員会)
- 26日(火) 浅草・下谷支部合同新年会(下谷支部担当) 宮地副会長出席
- 28日(木) 学術部委員会(運営委員会)
- 30日(土) 世田谷支部新年会 宮地副会長出席
- 31日(日) 埼玉県支部新年会 大山会長出席
- 2月8日(月) 学術部委員会(将来像検討委員会B)
- 10日(水) 広報部委員会(会報企画)
- 11日(木) 日本大学歯学部同窓会創立90周年記念行事  
大山会長, 矢崎・関各副会長, 高橋専務理事出席
- 13日(土) 岡山県支部総会  
学術講演会 講師・佐々木 朗先生(岡山大学歯学部病態系教授)
- 15日(月) 学術部委員会(臨床研修医セミナー検討会)
- 15日(月) 厚生部委員会
- 16日(火) 情報部委員会
- 16日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 17日(水) 第1回常任理事会
- 17日(水) 学術部委員会(全体委員会)
- 18日(木) 保険部委員会
- 20日(土) 北多摩支部総会 大山会長出席
- 21日(日) 三重県支部総会 高橋専務理事出席  
学術講演会 講師・石田 瞭講師(母校)
- 22日(月) 学術部委員会(企画委員会)
- 22日(月) 事業系ワーキンググループ
- 23日(火) 学術部委員会(研究部委員会)
- 24日(水) 学術部委員会(運営委員会)
- 25日(木) 学術部委員会(運営委員会)
- 26日(金) 学術部委員会(運営委員会)
- 3月1日(月) 総務関係打合せ
- 1日(月) 学術部委員会(運営委員会)
- 6日(土) 青森県支部総会 矢崎副会長出席  
学術講演会 講師・福田謙一准教授(母校)
- 7日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研フォーラム(No.1 先達に学ぶ『開業医としての楽しみ』)〕
- 8日(月) 東京歯科大学創立120周年記念事業座談会 大山会長, 高橋専務理事出席
- 9日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 10日(水) 渉外部委員会
- 11日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
- 12日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校第59

	回卒業式	大山会長出席	26日(月)	保険部委員会
12日(金)	広報部委員会(会報編集)		27日(火)	情報部委員会
13日(土)	群馬県支部総会	大山会長出席	28日(水)	学術部委員会(運営委員会)
15日(月)	管理系ワーキンググループ		5月1日(土)	総務関係打合せ
15日(月)	学術部委員会(プログラム委員会)		7日(金)	事業系ワーキンググループ
16日(火)	情報ネット推進ワーキンググループ		7日(金)	学術部委員会(運営委員会)
17日(水)	学術部委員会(研究部委員会)		10日(月)	広報部委員会(会報編集)
20日(土)	第2回理事会		10日(月)	学術部委員会(プログラム委員会)
23日(火)	事業系ワーキンググループ		11日(火)	学術部委員会(運営委員会)
24日(水)	新入会員オリエンテーション		12日(水)	第3回常任理事会
	高橋専務理事, 佐々木・河田各理事出席		14日(金)	学術部委員会(運営委員会)
24日(水)	情報部委員会		14日(金)	厚生部委員会
25日(木)	東京歯科大学第115回卒業証書・学位記授与式	大山会長出席	16日(日)	TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No3 口腔内から何を読み何を考えるか)〕
25日(木)	学術部委員会(運営委員会)		17日(月)	学術部委員会(運営委員会)
29日(月)	学術部委員会(企画委員会)		18日(火)	情報部委員会
30日(火)	六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会		18日(火)	学術部委員会(将来検討委員会)
30日(火)	学術部委員会(運営委員会)		19日(水)	千代田支部学術講演会 講師・宮崎真至先生(日本大学歯学部歯科保存学I教授)
31日(水)	学術部委員会(運営委員会)		20日(木)	同窓会改革検討特別委員会
4月1日(木)	厚生部委員会		21日(金)	学術部委員会(プログラム委員会)
2日(金)	保険部委員会		22日(土)	地域支部連合会会長と同窓会役員との懇談会
2日(金)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式	片倉副会長出席	22日(土)	東京歯科大学創立120周年記念式典, 記念講演, 記念祝賀会 大山会長出席
3日(土)	山形県支部総会	片倉副会長出席	24日(月)	学術部委員会(企画委員会)
	学術講演会 講師・薬師寺 仁教授(母校)		25日(火)	学術部委員会(運営委員会)
5日(月)	東京歯科大学入学式	大山会長出席	26日(水)	学術部委員会(研究部委員会)
5日(月)	学術部委員会(運営委員会)		26日(水)	渉外部委員会
7日(水)	学術部委員会(委員オリエンテーション)		27日(木)	ワーキンググループ打合せ
7日(水)	学術部委員会(運営委員会)		29日(土)	四国地域支部連合会総会(愛媛県支部担当)
7日(水)	総務関係打合せ			梅村副会長, 高橋専務理事, 久保田理事出席
7日(水)	管理系ワーキンググループ			学術講演会 講師・櫻井 薫教授(母校)
8日(木)	学術部委員会(運営委員会)		29日(土)	秋田県支部総会 宮地副会長出席
9日(金)	学術部委員会(プログラム委員会)			学術講演会 講師・山田 了教授(母校)
10日(土)	宮城県支部総会	矢崎副会長出席	6月1日(火)	学術部委員会(運営委員会)
	学術講演会 講師・福田謙一准教授(母校)		1日(火)	総務関係打合せ
12日(月)	広報部委員会(会報企画)		3日(木)	学術部委員会(運営委員会)
14日(水)	学術部委員会(運営委員会)		3日(木)	厚生部委員会ゴルフ大会委員会
15日(木)	監査会		4日(金)	事業系ワーキンググループ
15日(木)	同窓会改革検討特別委員会		5日(土)	九州地域支部連合会支部長会
16日(金)	学術部委員会(将来像検討委員会B)			濱田理事出席
16日(金)	厚生部委員会ゴルフ大会委員会		5日(土)	和歌山県支部総会
19日(月)	学術部委員会(運営委員会)		6日(日)	東海地域支部連合会支部長会
20日(火)	学術部委員会(研究部委員会)			梅村副会長, 宮田理事出席
21日(水)	第2回常任理事会		7日(月)	保険部委員会
22日(木)	学術部委員会(運営委員会)		8日(火)	総務関係打合せ
25日(日)	TDC 卒後研修セミナー開講式			
	〔卒研セミナー(No2 根管治療の経過不良を考える)〕			
26日(月)	学術部委員会(企画委員会)			

- 9日(水) 渋谷支部総会 関副会長出席
- 11日(金) 広報部委員会(会報企画)
- 12日(土) 東北地域支部連合会総会(岩手県支部担当) 片倉副会長, 高橋理事出席  
学術講演会 講師・河田英司教授(母校)
- 12日(土) 第3回理事会
- 12日(土) 大学と同窓会との懇談・懇親会
- 13日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No4 歯の審美的回復)〕
- 15日(火) 学術部委員会(将来像検討委員会B)
- 16日(水) 学術部委員会(プログラム委員会)
- 18日(金) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 21日(月) 大学との懇談 宮地副会長, 高橋専務理事, 山本理事出席
- 21日(月) 学術部委員会(運営委員会)
- 22日(火) 学術部委員会(将来検討委員会)
- 22日(火) 情報部委員会
- 23日(水) 学術部委員会(研究部委員会)
- 23日(水) 学術部委員会(研修委員会)
- 24日(木) 同窓会改革検討特別委員会
- 26日(土) 福島県支部総会 関副会長出席  
学術講演会 講師・坂本春生先生(東海大学医学部口腔外科教授)
- 26日(土) 川崎支部学術講演会 講師・水口 清教授(母校)
- 26日(土) 近畿地域支部連合会支部長会  
井口理事出席
- 28日(月) 学術部委員会(企画委員会)
- 29日(火) 水道橋病院教職員研修会  
高橋専務理事, 中西理事出席
- 29日(火) 学術部委員会(運営委員会)
- 7月3日(土) 信越地域支部連合会総会(新潟県支部担当)  
大山会長, 片倉副会長, 飯島理事出席  
学術講演会 講師・井川雅子先生(静岡市立清水病院口腔外科)
- 3日(土) 新潟県支部総会 大山会長, 片倉副会長, 飯島理事出席
- 4日(日) 埼玉県支部総会 大山会長出席  
学術講演会 講師: 柴原孝彦教授(母校)
- 5日(月) 事業系ワーキンググループ
- 6日(火) 保険部委員会
- 10日(土) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No5 安全で確実なインプラントをするために)〕
- 11日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー(No5 安全で確実なインプラントをするために)〕
- 12日(月) 大学との懇談 大山会長, 矢崎・関各副会長, 高橋専務理事, 鳴神顧問出席
- 12日(月) 広報部委員会(会報編集)
- 12日(月) 厚生部委員会
- 13日(火) 学術部委員会(プログラム委員会)
- 14日(水) 第4回常任理事会
- 14日(水) 学術部委員会(運営委員会)
- 15日(木) 東京地域支部連合会主催東歯保険関係懇談会 大山会長出席
- 21日(水) 同窓会改革検討特別委員会
- 21日(水) 学術部委員会(運営委員会)
- 21日(水) 練馬支部学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 22日(木) 同窓会主催全国ゴルフ大会実行委員会
- 22日(木) 会長・副会長連絡会
- 23日(金) 学術部委員会(将来検討委員会)
- 24日(土) 全国歯科大学同窓・校友会学術連絡会  
宮地副会長, 山本理事出席
- 26日(月) 学術部委員会(企画委員会)
- 27日(火) 渉外部委員会
- 28日(水) 平成22年度教育ワークショップ  
宮地副会長, 山本理事出席
- 28日(水) 学術部委員会(プログラム委員会)
- 28日(水) 学術部委員会(研修委員会)
- 29日(木) 日本大学歯学部同窓会主催チャリティコンサート 宮地副会長出席
- 30日(金) 情報部委員会
- 31日(土) 宮崎県支部学術講演会 講師・佐藤 亨教授(母校)
- 8月1日(日) 学術部委員会(全体委員会)
- 1日(日) 愛知県支部学術講演会 講師・菅野博康先生(宮城県開業)
- 2日(月) 保険部委員会
- 2日(月) 総務関係打合せ
- 5日(木) 事業系ワーキンググループ
- 6日(金) 学術部委員会(プログラム委員会)
- 7日(土) 大学との懇談  
大山会長, 片倉・矢崎・宮地・関・梅村各副会長, 高橋専務理事, 鳴神顧問出席  
納谷廣美先生講演・水道橋移転計画説明会・懇親会
- 7日(土) 大山会長, 片倉・矢崎・宮地・関・梅村各副会長, 高橋専務理事, 山本・中西理事, 鳴神顧問出席
- 20日(金) 広報部委員会(会報企画)
- 21日(土) 北海道地域支部連合会総会  
大山会長, 高橋専務理事, 戸田理事出席
- 23日(月) 学術部委員会(企画委員会)
- 25日(水) 学術部委員会(研究部委員会)
- 25日(水) 学術部委員会(研修委員会)
- 26日(木) 学術部委員会(運営委員会)
- 28日(土) 長野県支部合同総会 片倉副会長出席  
学術講演会(中信支部担当) 講師・山崎

- 長郎先生（東京都開業）
- 31日(火) 会長・副会長連絡会
- 9月2日(木) 同窓会主催全国ゴルフ大会
- 4日(土) 関東地域支部連合会総会（埼玉県支部担当）  
大山会長， 関副会長， 高橋専務理事， 長久保理事出席
- 7日(火) 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会準備会
- 8日(水) 事業系ワーキンググループ
- 9日(木) 東歯関係日歯役員・代議員， 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
- 10日(金) 広報部委員会（会報編集）
- 11日(土) 第4回理事会
- 12日(日) TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー（No6 SPT の実際）〕
- 12日(日) 渉外部委員会（東海地域委員会）
- 12日(日) 東海地域支部連合会総会（岐阜県支部担当）  
梅村副会長， 高橋専務理事， 島村・宮田
- 各理事出席
- 学術講演会 講師・小出宣昭氏（中日新聞東京本社代表）
- 13日(月) 保険部委員会
- 13日(月) 学術部委員会（将来像検討委員会B）
- 14日(火) 学術部委員会（プログラム委員会）
- 15日(水) 会則検討特別委員会
- 17日(金) 学術部委員会（運営委員会）
- 18日(土) 全国歯科大学同窓・校友会懇話会  
大山会長， 宮地・梅村各副会長， 高橋専務理事， 山本理事出席
- 22日(水) 情報部委員会
- 22日(水) 学術部委員会（委員研修会）
- 27日(月) 学術部委員会（企画委員会）
- 29日(水) 学術部委員会（研修委員会）
- 29日(水) 東京地域支部連合会学術講演会  
講師・伊藤 守氏（㈱コーチ・エイ）
- 30日(木) 総務関係打合せ
- 30日(木) 学術部委員会（研究部委員会）

平成21年10月1日より平成22年9月30日までに逝去された会員は次のとおりです。

(敬称略)

大 阪	浅 井 美 幸	南 信	安 藤 薫	苫 小 牧	杉 村 孝	南 信	前 川 寿 郎
埼 玉	宮 坂 保 男	静 岡	土 屋 謙 一	茨 城	小 島 建 二 郎	大 阪	安 村 泰 一
新 潟	河 内 隆 男	板 橋	横 田 正 巳	福 島	小 林 正 一	秋 田	中 村 正
芝	黒 柳 錦 也	岐 阜	大 橋 雅 人	静 岡	平 岡 久 仁 夫	長 崎	川 上 晃
岡 山	木 本 克 巳	川 崎	長 嘉 儀	兵 庫	荻 原 貞 雄	海 外	鄭 麟 蕃
新 潟	関 川 嘉 治 郎	岡 山	山 口 貢	茨 城	蔵 野 英 雄	大 森	遠 藤 忠 衛
広 島	大 泰 司 正 信	兵 庫	有 馬 良 治	千 葉	鶴 木 太 郎	愛 知	岩 田 淳
静 岡	栗 田 春 海	石 川	新 正 夫	芝	江 里 口 健 二	福 岡	深 山 實
山 口	唐 木 元 一	京 橋	稲 川 英 史	静 岡	大 羽 覚 一	埼 玉	利 根 川 眞 澄
旭 川	細 野 由 美 子	大 森	松 井 麗	三 重	横 田 正 己	牛 込	下 川 定 之
岡 山	的 場 勝	埼 玉	今 中 浩 二	旭 川	神 保 実	神 奈 川 湘 南	滝 沢 章 二
浅 草	熊 谷 一 義	蒲 田	山 村 博 望	世 田 谷	田 中 省 順	神 奈 川 湘 南	鈴 木 肇
目 黒	内 藤 粲	群 馬	袋 仁 美	佐 賀	井 内 正 浩	愛 知	中 島 武 男
三 重	門 脇 俊 太	日 本 橋	田 中 道 章	町 田	雨 宮 宏 郎	兵 庫	長 安 清 司
旭 川	並 木 稔	愛 知	小 出 元 美	中 信	田 中 秀 穂	石 川	庭 田 悟 士
栃 木	小 平 正 夫	静 岡	寺 田 好 一 郎	世 田 谷	高 橋 勇	深 川	小 坂 剛 也
静 岡	佐 塚 樹 一	青 森	長 内 滋 夫	山 形	小 林 吉 春	千 葉	小 沼 孟
千 葉	青 木 藤 雄	中 信	森 尚	福 井	下 山 崇	渋 谷	二 階 堂 胤 平
函 館	星 野 衛	横 浜 中 央	本 多 信 圭	山 形	京 野 賢	旭 川	三 浦 欣 一
茨 城	浅 野 實	栃 木	加 藤 繁 夫	世 田 谷	大 高 義 廣	杉 並	吉 井 久
山 形	小 林 久 恭	中 信	矢 崎 康	岡 山	奥 欽 也	山 形	大 坪 賢 二
山 梨	古 屋 富 雄	中 野	水 津 博	栃 木	牟 田 栄	広 島	三 宅 昭 典
神 奈 川 相 模	関 戸 利 夫	渋 谷	愛 知 正 昭	埼 玉	斎 藤 光 生	札 幌	丸 山 良 平
栃 木	椎 貝 敏 夫	十 勝	松 崎 哲 男	愛 知	渡 辺 武 磨	芝	矢 島 忠 夫
小 石 川	飯 島 皓	佐 賀	久 野 勇	山 形	奥 山 智 一	小 石 川	志 賀 昭 二
埼 玉	永 田 稔	渋 谷	笠 原 保	鹿 児 島	森 昭 夫	愛 知	廣 田 一 夫
愛 知	青 木 秀 雄	兵 庫	木 村 昭	大 分	吉 武 観 八 郎	兵 庫	浅 井 正
広 島	宝 諸 司 郎	武 蔵 野	田 辺 和 三 郎	宮 崎	嶽 崎 亥 生	群 馬	天 田 治 男
愛 知	酒 井 隆	千 葉	天 羽 正	杉 並	牧 尾 美 代 子	横 浜 鶴 見	石 井 昭
岡 山	赤 沢 莊 三	富 山	倉 田 雅 人	愛 知	加 藤 正 和	目 黒	五 百 住 一 夫
麴 町	福 島 直	千 葉	池 田 隆	大 分	柳 川 一 征	岐 阜	西 山 孝 雄
高 知	谷 忠 明	横 須 賀 ・ 鎌 倉	本 間 正 敏	八 南	紺 野 虔 一	山 形	相 馬 昭 一
三 重	浅 野 順 平	足 立	清 原 利 夫	山 口	財 満 史 郎	岐 阜	水 野 芳 郎
福 井	山 口 忠 臣	埼 玉	氏 家 英 峰	板 橋	石 井 康 之	福 岡	大 門 清 美
栃 木	高 田 哲 三	愛 知	平 野 正 毅	茨 城	染 谷 修 一 郎	丸 の 内	永 田 義 昭
北 多 摩	井 上 良 和	目 黒	木 村 昌 夫	埼 玉	須 永 一	高 知	横 矢 昌 彦
札 幌	麻 生 謙 介	小 石 川	橋 本 健	荒 川	清 信 茂 夫		

(届出順 以上 147名)

# 平成22年度東京歯科大学同窓会厚生部報告

(自 平成21年10月1日 至 平成22年9月30日)

1. 火災、災害による罹災会員に共済規程第6条第1項二号に基づき罹災共済金（見舞金）を支給した会員は次のとおりです。

静岡県支部 對木正幸氏（昭51卒） 火災により住宅被害

以上1名 平成22年3月25日支給

千葉県支部 小船邦夫氏（昭54卒） 火災により住宅被害

島根県支部 竹原茂久氏（昭31卒） 火災により住宅被害

以上2名 平成22年9月14日支給

以上3名

2. 共済規程第6条第1項一号に基づき弔慰金を贈呈した逝去会員は次のとおりです。

(敬称略)

大 阪	浅 井 美 幸	南 信	安 藤 薫	苦 小 牧	杉 村 孝	南 信	前 川 寿 郎
静 岡	土 屋 謙 一	茨 城	小 島 建 二 郎	大 阪	安 村 泰 一	新 潟	河 内 隆 男
板 橋	榎 田 正 巳	福 島	小 林 正 一	秋 田	中 村 正	芝	黒 柳 錦 也
岐 阜	大 橋 雅 人	静 岡	平 岡 久 仁 夫	長 崎	川 上 晃	岡 山	木 本 克 巳
川 崎	長 嘉 儀	兵 庫	荻 原 貞 雄	新 潟	関 川 嘉 治 郎	岡 山	山 口 貢
茨 城	蔵 野 英 雄	大 森	遠 藤 忠 衛	広 島	大 泰 司 正 信	兵 庫	有 馬 良 治
静 岡	栗 田 春 海	石 川	新 正 夫	芝	江 里 口 健 二	福 岡	深 山 實
山 口	唐 木 元 一	京 橋	稲 川 英 史	静 岡	大 羽 覚 一	埼 玉	利 根 川 眞 澄
旭 川	細 野 由 美 子	三 重	横 田 正 己	牛 込	下 川 定 之	岡 山	的 場 勝
埼 玉	今 中 浩 二	神 奈 川 湘 南	滝 沢 章 二	浅 草	熊 谷 一 義	蒲 田	山 村 博 望
世 田 谷	田 中 省 順	神 奈 川 湘 南	鈴 木 肇	目 黒	内 藤 粲	群 馬	袋 仁 美
佐 賀	井 内 正 浩	愛 知	中 島 武 男	三 重	門 脇 俊 太	日 本 橋	田 中 道 章
町 田	雨 宮 宏 郎	兵 庫	長 安 清 司	旭 川	並 木 稔	中 信	田 中 秀 穂
石 川	庭 田 悟 士	栃 木	小 平 正 夫	静 岡	寺 田 好 一 郎	世 田 谷	高 橋 勇
深 川	小 坂 剛 也	静 岡	佐 塚 樹 一	青 森	長 内 滋 夫	山 形	小 林 吉 春
千 葉	小 沼 孟	千 葉	青 木 藤 雄	中 信	森 尚	福 井	下 山 崇
渋 谷	二 階 堂 胤 平	函 館	星 野 衛	横 浜 中 央	本 多 信 圭	山 形	京 野 賢
旭 川	三 浦 欣 一	栃 木	加 藤 繁 夫	杉 並	吉 井 久	山 形	小 林 久 恭
中 信	矢 ヶ 崎 康	岡 山	奥 欽 也	山 形	大 坪 賢 二	山 梨	古 屋 富 雄
中 野	水 津 博	栃 木	牟 田 栄	広 島	三 宅 昭 典	神 奈 川 相 北	関 戸 利 夫
渋 谷	愛 知 正 昭	埼 玉	斎 藤 光 生	札 幌	丸 山 良 平	栃 木	椎 貝 敏 夫
芝	矢 島 忠 夫	小 石 川	飯 島 皓	佐 賀	久 野 勇	山 形	奥 山 智 一
小 石 川	志 賀 昭 二	埼 玉	永 田 稔	渋 谷	笠 原 保	鹿 児 島	森 昭 夫
愛 知	廣 田 一 夫	愛 知	青 木 秀 雄	兵 庫	木 村 昭	大 分	吉 武 観 八 郎
兵 庫	浅 井 正	広 島	宝 諸 司 郎	武 蔵 野	田 辺 和 三 郎	宮 崎	嶽 崎 亥 生
群 馬	天 田 治 男	愛 知	酒 井 隆	千 葉	天 羽 正	横 浜 鶴 見	石 井 昭
岡 山	赤 沢 莊 三	富 山	倉 田 雅 人	愛 知	加 藤 正 和	目 黒	五 百 住 一 夫
麴 町	福 島 直	千 葉	池 田 隆	大 分	柳 川 一 征	岐 阜	西 山 孝 雄
高 知	谷 忠 明	横 須 賀 鎌 倉	本 間 正 敏	八 南	紺 野 虔 一	山 形	相 馬 昭 一
三 重	浅 野 順 平	足 立	清 原 利 夫	山 口	財 満 史 郎	岐 阜	水 野 芳 郎
福 井	山 口 忠 臣	埼 玉	氏 家 英 峰	板 橋	石 井 康 之	福 岡	大 門 清 美
栃 木	高 田 哲 三	愛 知	平 野 正 毅	丸 の 内	永 田 義 昭	北 多 摩	井 上 良 和
目 黒	木 村 昌 夫	埼 玉	須 永 一	高 知	横 矢 昌 彦	札 幌	麻 生 謙 介
小 石 川	橋 本 健	荒 川	清 信 茂 夫				

(届出順 以上 134名)

第1号議案

平成21年度 東京歯科大学同窓会

経常部収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
会 費	109,000,000	106,117,000	2,883,000	97.4	{ 昭和40～42年度 1,200円× 0人 昭和43～47年度 1,700円× 0人 昭和48年度 3,200円× 0人 昭和49年度 3,500円× 0人 昭和50年度 6,000円× 1人 昭和51年度 7,000円× 1人 昭和52年度 8,000円× 1人 昭和53年度 8,000円× 1人 昭和54年度 8,000円× 0人 昭和55年度 10,000円× 0人 昭和56年度 10,000円× 0人 昭和57年度 10,000円× 0人 昭和58年度 12,000円× 0人 昭和59年度 12,000円× 0人 昭和60年度 12,000円× 0人 昭和61年度 12,000円× 0人 昭和62年度 12,000円× 0人 昭和63年度 14,000円× 0人 平成1年度 14,000円× 0人 平成2年度 14,000円× 1人 平成3年度 14,000円× 2人 平成4年度 14,000円× 2人 平成5年度 14,000円× 2人 平成6年度 14,000円× 3人 平成7年度 14,000円× 2人 平成8年度 14,000円× 7人 平成9年度 14,000円× 7人 平成10年度 14,000円× 5人 平成11年度 20,000円× 7人 平成11年度 6,000円× 0人 平成12年度 20,000円× 11人 平成13年度 20,000円× 15人 平成14年度 18,000円× 13人 平成15年度 18,000円× 22人 平成16年度 18,000円× 28人 平成17年度 18,000円× 40人 平成18年度 18,000円× 72人 平成19年度 18,000円× 134人 平成20年度 18,000円× 1,290人 平成21年度 18,000円× 4,234人 平成19年度以前分 377人 6,685,000円 平成20年度分 1,290人 23,220,000円 平成21年度分 4,234人 76,212,000円 合 計 5,901人 106,117,000円
入 会 金	740,000	715,000	25,000	96.6	{ 新 卒 者 127人×5,000=635,000 支部会員 16人×5,000= 80,000
雑 収 入	1,850,000	1,761,275	88,725	95.2	
前年度繰越金	19,000,000	30,856,295	△11,856,295	162.4	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 1,569,727 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 16,345,768 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 4,000,000 ゆうちょ銀行通常貯金 8,940,800
合 計	130,590,000	139,449,570	△ 8,859,570	106.8	

## (支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
事 務 費	38,870,000	34,249,493	4,620,507	88.1	
給 与 費	23,310,000	17,409,368	5,900,632	74.7	事務職員
福 利 厚 生 費	270,000	170,350	99,650	63.1	役員等の傷害保険
地 代 家 賃	3,600,000	3,900,000	△ 300,000	108.3	
通 信 費	1,760,000	2,360,543	△ 600,543	134.1	
印 刷 費	1,460,000	1,783,954	△ 323,954	122.2	
備 品 購 入 費	500,000	833,000	△ 333,000	166.6	
消 耗 品 費	470,000	388,955	81,045	82.8	
集 金 手 数 料	4,590,000	4,524,000	66,000	98.6	
保 守 管 理 委 託 費	2,460,000	2,204,830	255,170	89.6	
雑 費	450,000	674,493	△ 224,493	149.9	
事 業 費	66,630,000	56,666,669	9,963,331	85.0	
旅 費 交 通 費	30,180,000	28,124,288	2,055,712	93.2	
総 務 関 係 費	1,520,000	1,180,143	339,857	77.6	
広 報 関 係 費	14,460,000	12,918,465	1,541,535	89.3	
渉 外 関 係 費	2,940,000	1,356,582	1,583,418	46.1	緊急対策費・医政対策費減
保 険 関 係 費	620,000	605,004	14,996	97.6	
学 術 関 係 費	2,720,000	2,701,503	18,497	99.3	
厚 生 関 係 費	450,000	169,095	280,905	37.6	
情 報 関 係 費	900,000	495,778	404,222	55.1	
会 合 費	1,500,000	385,233	1,114,767	25.7	
交 際 費	8,810,000	5,694,062	3,115,938	64.6	会長交際費等減
慶 弔 費	1,930,000	2,129,000	△ 199,000	110.3	
雑 費	600,000	907,516	△ 307,516	151.3	
会 議 費	3,050,000	2,809,181	240,819	92.1	
役 員 会 費	100,000	448,570	△ 348,570	448.6	
評 議 員 会 費・総 会 費	2,500,000	2,237,316	262,684	89.5	平成21年11月28日開催
支 部 長 会 費	100,000	0	100,000	0.0	
雑 費	350,000	123,295	226,705	35.2	
特別会計繰入金	4,570,000	5,045,000	△ 475,000	110.4	
同 窓 会 基 金	740,000	715,000	25,000	96.6	平成21年度分繰入
血 脇 記 念 基 金	100,000	100,000	0	100.0	〃
名 簿 積 立 金	2,730,000	3,230,000	△ 500,000	118.3	〃
退 職 積 立 金	1,000,000	1,000,000	0	100.0	〃
予 備 費	17,470,000	0	17,470,000	0.0	
支 出 計	130,590,000	98,770,343	31,819,657	75.6	
次 年 度 繰 越 金	0	40,679,227	△40,679,227		{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 2,104,576 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 33,517,013 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 4,000,000 神田三崎町郵便局通常預金 1,057,638
合 計	130,590,000	139,449,570	△ 8,859,570	106.8	

第2号議案

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
同窓会基金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
繰 入 金	740,000	715,000	25,000	96.6	経常部より繰入 利息
雑 収 入	10,000	72,908	△ 62,908	729.1	
前年度繰越金	26,790,000	26,445,508	344,492	98.7	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 2,203,884 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 12,000,000 みずほ信託銀行普通預金 91,624 みずほ信託銀行定期預金 12,150,000
合 計	27,540,000	27,233,416	306,584	98.9	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
次年度繰越金	27,540,000	27,233,416	306,584	98.9	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 2,957,631 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 12,000,000 みずほ信託銀行普通預金 125,785 みずほ信託銀行定期預金 12,150,000
合 計	27,540,000	27,233,416	306,584	98.9	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
血脇記念基金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
繰 入 金	100,000	100,000	0	100.0	経常部より繰入 利息
雑 収 入	10,000	10,846	△ 846	108.5	
前年度繰越金	4,750,000	4,715,922	34,078	99.3	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 715,922 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 4,000,000
合 計	4,860,000	4,826,768	33,232	99.3	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
次年度繰越金	4,860,000	4,826,768	33,232	99.3	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 826,768 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 4,000,000
合 計	4,860,000	4,826,768	33,232	99.3	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
共済基金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
共済負担金	19,650,000	21,191,000	△ 1,541,000	107.8	{ 昭和40年度～42年度 300円× 0人 昭和43年度～48年度 800円× 0人 昭和49年度～51年度 1,500円× 2人 昭和52年度～53年度 2,000円× 2人 昭和54年度～55年度 3,000円× 0人 昭和56年度～63年度 4,000円× 0人 平成1年度～10年度 4,000円× 31人 平成11年度～18年度 4,000円× 219人 平成19年度 4,000円× 141人 計 1,571,000円 395人 過年度分(平成19年度以前分)(395人) 1,571,000 過年度分(平成20年度分) (1,419人) 5,676,000 当年度分(平成21年度分) (4,648人) 13,944,000 計 (6,462人) 21,191,000
雑収入	20,000	338,982	△ 318,982	1,694.9	利息
前年度繰越金	121,800,000	127,954,666	△ 6,154,666	105.1	{ 三菱東京UFJ銀行普通預金 10,280,743 三菱東京UFJ銀行定期預金 114,000,000 みずほ信託銀行普通預金 223,923 みずほ信託銀行定期預金 3,450,000
合 計	141,470,000	149,484,648	△ 8,014,648	105.7	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
共 済 金	19,750,000	54,630,000	△34,880,000	276.6	{ 弔慰共済金 14,400,000 (@200,000×14件) (@100,000×116件) 罹災共済金 130,000 風水害 (@100,000×1件) 火災 (@30,000×1件) 80歳祝金 39,900,000 (@50,000×798人) 100歳祝金 200,000 (@50,000×4件)
事務費	220,000	572,450	△ 352,450	260.2	祝金送料他
予備費	6,000,000	0	6,000,000	0.0	
給付準備金	115,500,000	0	115,500,000	0.0	
次年度繰越金	0	94,282,198	△94,282,198		{ 三菱東京UFJ銀行普通預金 10,600,405 三菱東京UFJ銀行定期預金 80,000,000 みずほ信託銀行普通預金 231,793 みずほ信託銀行定期預金 3,450,000
合 計	141,470,000	149,484,648	△ 8,014,648	105.7	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
名簿積立金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
繰 入 金	2,730,000	3,230,000	△ 500,000	118.3	経常部より繰入
雑 収 入	10,000	28,742	△ 18,742	287.4	利息
前年度繰越金	14,300,000	13,636,819	663,181	95.4	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 6,636,819 { 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 7,000,000
合 計	17,040,000	16,895,561	144,439	99.2	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
通 信 費	1,230,000	2,277,776	△ 1,047,776	185.2	名簿記載事項確認書郵送料他
印 刷 費	15,710,000	14,493,994	1,216,006	92.3	名簿作成費 9,500冊
雑 費	100,000	75,000	25,000	75.0	データチェックリスト
次年度繰越金	0	48,791	△ 48,791	0.0	三菱東京 UFJ 銀行普通預金 48,791
合 計	17,040,000	16,895,561	144,439	99.2	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
退職積立金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	100.0	経常部より繰入
雑 収 入	10,000	447	9,553	4.5	利息
前年度繰越金	660,000	657,493	2,507	99.6	三菱東京 UFJ 銀行普通預金 657,493
合 計	1,670,000	1,657,940	12,060	99.3	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
次年度繰越金	1,670,000	1,657,940	12,060	99.3	三菱東京 UFJ 銀行普通預金 1,657,940
合 計	1,670,000	1,657,940	12,060	99.3	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
 (至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
受 講 料	10,870,000	11,214,000	△ 344,000	103.2	1. 臨床実技セミナー No.1 「MTM基礎コース」 3,012,000 ①〔受講割引なし〕 一般 95,000×18人 1,710,000 (2日間) ②〔受講割引あり〕 一般 93,000×14人 1,302,000 (2日間) No.2 「新素材, 歯冠修復の新たな潮流」 2,052,000 ①〔受講割引なし〕 一般 50,000×18人 900,000 (1日間) ②〔受講割引あり〕 一般 48,000×24人 1,152,000 (1日間) No.3 「全身管理と偶発症に強くなろう」 1,391,000 ①〔受講割引なし〕 一般 35,000×19人 665,000 (1日間) ②〔受講割引あり〕 一般 33,000×22人 726,000 (1日間) No.4 「根管形成法, 根管充填法の基本と応用」 1,950,000 ①〔受講割引なし〕 一般 50,000×15人 750,000 (1日間) ②〔受講割引あり〕 一般 48,000×25人 1,200,000 (1日間) 2. 基本技術セミナー No.5 「フラップ手術の基本」 2,130,000 ①〔受講割引なし〕 一般 50,000×25人 1,250,000 (1日間) ②〔受講割引あり〕 一般 48,000×10人 480,000 (1日間) 一般 40,000×10人 400,000 (1日間) No.6 「1枚のX線写真からみられること」 595,000 ①〔受講割引なし〕 一般 25,000×10人 250,000 (1日間) ②〔受講割引あり〕 一般 23,000×15人 345,000 (1日間) 3. 卒研フォーラム No.7 「歯科医療の将来へ向けて」 84,000 ①〔受講割引なし〕 非同窓会員 5,000×9人 45,000 (1日間) 非同窓会員 3,000×13人 39,000 (1日間) 合 計 11,214,000
雑 収 入	20,000	175,657	△ 155,657	878.3	セミナーテキスト代他
繰 入 金	400,000	1,400,000	△ 1,000,000	350.0	卒後研修セミナー積立金会計より繰入
前年度繰越金	5,000,000	5,542,536	△ 542,536	110.9	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 48,000 { 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 5,494,536
合 計	16,290,000	18,332,193	△ 2,042,193	112.5	

## (支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
事 業 費	14,900,000	12,110,413	2,789,587	81.3	
講師謝礼費	3,300,000	1,974,000	1,326,000	59.8	
講師旅費	1,500,000	1,148,360	351,640	76.6	セミナー旅費
資料作成費	900,000	929,250	△ 29,250	103.3	テキスト作成費等
実習器材費	4,000,000	3,975,713	24,287	99.4	
役 務 費	1,400,000	1,605,350	△ 205,350	114.7	
設 営 費	1,200,000	887,362	312,638	73.9	
印刷広報費	700,000	496,606	203,394	70.9	
受講証関係費	100,000	0	100,000	0.0	
広 告 費	1,000,000	371,700	628,300	37.2	
渉 外 費	400,000	114,172	285,828	28.5	
会 場 費	400,000	607,900	△ 207,900	152.0	血脇記念ホール他
事 務 費	700,000	478,024	221,976	68.3	
通信運搬費	500,000	417,464	82,536	83.5	振込手数料他
消 耗 品 費	100,000	54,450	45,550	54.5	
雑 費	100,000	6,110	93,890	6.1	
公 租 公 課	480,000	416,600	63,400	86.8	消費税
予 備 費	210,000	0	210,000	0.0	
小 計	16,290,000	13,005,037	3,284,963	79.8	
次年度繰越金	0	5,327,156	△ 5,327,156		三菱東京 UFJ 銀行普通預金 5,327,156
合 計	16,290,000	18,332,193	△ 2,042,193	112.5	

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー積立金収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
 (至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
雑 収 入	10,000	44,147	△ 34,147	441.5	利息
前年度繰越金	19,410,000	20,483,456	△ 1,073,456	105.5	{ みずほ信託銀行普通預金 2,483,456 { みずほ信託銀行定期預金 18,000,000 ①17,200,000(満期日21.12.18) ② 400,000(満期日21.12.18) ③ 400,000(満期日21.12.18)
合 計	19,420,000	20,527,603	△ 1,107,603	105.7	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
通 信 費	0	735	△ 735		振込手数料
繰入金支出	400,000	1,400,000	△ 1,000,000	350.0	卒後研修セミナー会計繰入
次年度繰越金	19,020,000	19,126,868	△ 106,868	100.6	{ みずほ信託銀行普通預金 1,126,868 { みずほ信託銀行定期預金 18,000,000 ①17,200,000(満期日22.12.18) ② 400,000(満期日22.12.18) ③ 400,000(満期日22.12.18)
合 計	19,420,000	20,527,603	△ 1,107,603	105.7	

**第4号議案**

平成21年度 東京歯科大学同窓会  
時局対策費積立金会計収支決算書

(自 平成21年1月1日)  
(至 平成21年12月31日)

(収入の部)

△印=予算額に比較し増額の場合

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	100.0	経常部より繰入
雑 収 入	10,000	56,667	△ 46,667	566.7	利息
前年度繰越金	31,060,000	31,073,851	△ 13,851	100.0	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 16,073,851 { 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 15,000,000
合 計	32,070,000	32,130,518	△ 60,518	100.2	

(支出の部)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
次年度繰越金	32,070,000	32,130,518	△ 60,518	100.2	{ 三菱東京 UFJ 銀行普通預金 17,130,518 { 三菱東京 UFJ 銀行定期預金 15,000,000
合 計	32,070,000	32,130,518	△ 60,518	100.2	

## 財 産 目 録

平成21年12月31日

## 1. 備 品

## 機 器 備 品

品 目	数量	購入年月	購入価格	備 考
1 収納戸棚	3	H 9. 10	370, 650	
2 書類保管庫	3	H13. 4	370, 482	
3 パソコン Mac iBook	1	H14. 8	180, 390	Mac
4 プロジェクター Epson	1	H14. 8	338, 100	
5 ビデオカメラ	1	H19. 12	138, 906	
6 プロジェクター	1	H19. 12	279, 800	
7 パソコン	4	H20. 3	798, 000	WIN
8 書類保管庫 A4 W-IS	1	H20. 9	115, 815	
9 パソコン	1	H21. 2	248, 000	WIN
計 9 品 目	16		2, 840, 143	

## 電 話 加 入 権

品 目	数量	購入年月	購入価格	備 考
1 電話加入権	2回線	H 2. 3	149, 968	@74, 984
2 電話加入権	1回線	H15. 8	76, 440	
計			226, 408	

## 消 耗 備 品

品 目	数 量	購入価格	備 考
1 冷蔵庫 他	54点	3, 008, 816	

2. 普通預金, 定期預金, 通常預金

会計区分	種類	預金残高	取引銀行
(1) 経常部	普通預金	2,104,576	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	〃	33,517,013	〃 〃
	定期預金	4,000,000	〃 〃
	通常貯金	1,057,638	神田三崎町郵便局
計		40,679,227	
(2) 共済基金	普通預金	10,600,405	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	80,000,000	〃 〃
	普通預金	231,793	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	3,450,000	〃 〃
計		94,282,198	
(3) 同窓会基金	普通預金	2,957,631	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	12,000,000	〃 〃
	普通預金	125,785	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	12,150,000	〃 〃
計		27,233,416	
(4) 血脇記念基金	普通預金	826,768	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	4,000,000	〃 〃
計		4,826,768	
(5) 名簿積立金	普通預金	48,791	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		48,791	
(6) 退職積立金	普通預金	1,657,940	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		1,657,940	
(7) 卒後研修セミナー	普通預金	5,327,156	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
計		5,327,156	
(8) 卒後研修セミナー積立金	普通預金	1,126,868	みずほ信託銀行 本店
	定期預金	18,000,000	〃 〃
計		19,126,868	
(9) 時局対策費積立金	普通預金	17,130,518	三菱東京UFJ銀行 神保町支店
	定期預金	15,000,000	〃 〃
計		32,130,518	
合計		225,312,882	

# 監 査 報 告

平成21年度東京歯科大学同窓会業務運営状況及び経常部収支決算書，特別会計収支決算書（即ち，同窓会基金決算，血脇記念基金決算，共済基金決算，名簿積立金決算，退職積立金決算），卒後研修セミナー収支決算書，卒後研修セミナー積立金収支決算書，時局対策費積立金会計収支決算書，及び財産目録につき諸帳簿，証憑書類を監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成22年4月15日

常任監事 原 武 仁 ⑩  
監 事 浅 野 薫 之 ⑩  
監 事 柳 澤 孝 彰 ⑩

## 第6号議案

### 財産（備品）廃棄処分目録

冷蔵庫 他 16品目  
同窓会室移転のため

## 第7号議案

### 同窓会改革に係る東京歯科大学同窓会会則 一部変更を求むるの件

## 第8号議案

### 会員資格等に係る東京歯科大学同窓会会則 一部変更を求むるの件

## 第9号議案

### 東京歯科大学同窓会緊急時歯科医師 委嘱制度について

## 平成23年度事業計画

### 総務・厚生部

1. 諸会合の準備・調整並びに運営を行う。
2. 会員現況の把握並びに名簿の補充完備を図る。
3. 母校・父兄会・学生との連携を図る。
4. 同窓会改革のため、会則等の見直しを行う。
5. 支部・地域支部連合会との情報交換を促進する。
6. 支部未入会者対策を講じる。
7. 母校創立120周年記念事業に協力する。
8. 第58回全国歯科大学同窓・校友会懇談会の主管をする。
9. 共済制度の健全なる運営を行う。
10. 会員厚生および親睦の充実を図る。
11. 同窓会員緊急時 代診制度の運用をする。

### 渉 外 部

1. 各歯科大学同窓・校友会との交流を図り、緊密なる友好を深める。
2. 会員の歯科医政関係者との緊密な連携を保ち医政の推進を図る。
3. 母校との連携のもとに国・公・私的機関等と協力し、人材の確保、育成に努める。
4. 渉外活動に関する情報交換を進め、全国レベルでの情報の共有と集約を図る。

### 広 報 部

1. 会報を年6回発行し、会員との情報交換を図る。
2. 新入会員名簿・会員住所変更訂正版名簿を出版する。
3. ホームページの維持管理を行う。

### 事業推進部

1. 歯科保健・医療制度・生涯研修などの調査、情報提供などシンクタンク機能の推進をする。
2. 若手同窓を対象とした事業を企画、開催する。
3. 大学との連携のもと、同窓の診療所を活用するシステムを構築する。

(学術関係)

1. TDC 卒後セミナーを開催する。
2. 地域支部連合会・支部における講演会、研修活動を支援する。
3. 各大学の同窓会学術担当者と情報交換を行う。
4. 学術情報の収集、分析および提供を図る。

(保険関係)

1. 医療保険関係者等との交流を行う。
2. 各支部の医療保険請求に係わる情報の収集および発信をする。

## 第11号議案

### 平成23年度入会金について

平成23年度 入会金現行通り本学出身の会員5,000円, 推薦会員50,000円

## 第12号議案

### 平成23年度会費について

平成23年度 会費現行通り 18,000円

## 第13号議案

### 平成23年度 東京歯科大学同窓会 経常部収支予算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

(収入の部)

△印 = 前年度予算額に比較し増額の場合

科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	前年度との 比 較	対 比	摘 要
	円	円	円	%	
会 費	105,780,000	103,910,000	1,870,000	98.2	過年度分 (平成21年度以前分) 770人 12,110,000 過年度分 (平成22年度分) 1,275人 22,950,000 当年度分 (平成23年度分) 3,825人 68,850,000
入 会 金	740,000	740,000	0	100.0	{ 新卒者入会金 5,000 128人 { その他 50,000 2人
雑 収 入	1,850,000	1,850,000	0	100.0	会報広告料他
収 入 計	108,370,000	106,500,000	1,870,000	98.3	
前年度繰越金	20,900,000	25,000,000	△ 4,100,000	119.6	
合 計	129,270,000	131,500,000	△ 2,230,000	101.7	

## (支出の部)

科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	前年度との 較 比	対 比	摘 要
事 務 費	33,790,000	37,980,000	△ 4,190,000	112.4	
給 与 費	19,440,000	23,150,000	△ 3,710,000	119.1	事務職員
福 利 厚 生 費	270,000	270,000	0	100.0	役員等傷害保険
地 代 家 賃	3,600,000	4,200,000	△ 600,000	116.7	同窓会室, 駐車場
通 信 費	1,790,000	1,760,000	30,000	98.3	
印 刷 費	1,460,000	1,460,000	0	100.0	
備 品 購 入 費	600,000	600,000	0	100.0	
消 耗 品 費	400,000	400,000	0	100.0	
集 金 手 数 料	4,770,000	4,680,000	90,000	98.1	
保 守 管 理 委 託 費	1,190,000	1,190,000	0	100.0	
雑 費	270,000	270,000	0	100.0	
事 業 費	83,940,000	75,550,000	8,390,000	90.0	
旅 費 交 通 費	27,430,000	28,270,000	△ 840,000	103.1	
総務・厚生関係費	21,650,000	12,110,000	9,540,000	55.9	時局対策費積立金他
渉 外 関 係 費	3,010,000	3,090,000	△ 80,000	102.7	
広 報 ・ 情 報 関 係 費	14,430,000	14,900,000	△ 470,000	103.3	会報部分的カラーページ他
事 業 推 進 関 係 費	5,580,000	4,280,000	1,300,000	76.7	
会 合 費	1,000,000	1,000,000	0	100.0	
交 際 費	7,630,000	9,040,000	△ 1,410,000	118.5	総会時助成金他
慶 弔 費	1,930,000	1,930,000	0	100.0	
雑 費	1,280,000	930,000	350,000	72.7	
会 議 費	2,850,000	3,450,000	△ 600,000	121.1	
役 員 会 費	100,000	100,000	0	100.0	会議費
評 議 員 会 費	1,600,000	1,600,000	0	100.0	
総 会 費	700,000	700,000	0	100.0	
支 部 長 会 費	100,000	100,000	0	100.0	
学 年 代 表 者 会 費	0	600,000	△ 600,000		
雑 費	350,000	350,000	0	100.0	
特別会計繰入金	3,840,000	5,840,000	△ 2,000,000	152.1	
同 窓 会 基 金	740,000	740,000	0	100.0	
血 脇 記 念 基 金	100,000	100,000	0	100.0	
名 簿 積 立 金	2,000,000	2,000,000	0	100.0	
退 職 積 立 金	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	300.0	
支 出 計	124,420,000	122,820,000	1,600,000	98.7	
予 備 費	4,850,000	8,680,000	△ 3,830,000	179.0	
合 計	129,270,000	131,500,000	△ 2,230,000	101.7	

第14号議案

平成23年度共済負担金について

平成23年度 共済負担金現行通り 3,000円

第15号議案

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
同窓会基金収支予算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
繰 入 金	740,000	740,000	経常部より				
雑 収 入	50,000	80,000	利息	次 年 度 繰 越 金	28,330,000	29,150,000	
前 年 度 繰 越 金	27,540,000	28,330,000					
合 計	28,330,000	29,150,000		合 計	28,330,000	29,150,000	

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
血脇記念基金収支予算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
繰 入 金	100,000	100,000	経常部より				
雑 収 入	10,000	10,000	利息	次 年 度 繰 越 金	4,970,000	5,080,000	
前 年 度 繰 越 金	4,860,000	4,970,000					
合 計	4,970,000	5,080,000		合 計	4,970,000	5,080,000	

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
共 済 基 金 収 支 予 算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

(収入の部)

科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要															
共 済 負 担 金	19,600,000	19,090,000	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">653人</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">2,470,000</td> </tr> <tr> <td>過年度分(平成21年度以前分)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>過年度分(平成22年度分)</td> <td style="text-align: right;">1,320人</td> <td style="text-align: right;">3,960,000</td> </tr> <tr> <td>当年度分(平成23年度分)</td> <td style="text-align: right;">4,220人</td> <td style="text-align: right;">12,660,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合 計</td> <td style="text-align: right;">6,193人</td> <td style="text-align: right;">19,090,000</td> </tr> </table>		653人	2,470,000	過年度分(平成21年度以前分)			過年度分(平成22年度分)	1,320人	3,960,000	当年度分(平成23年度分)	4,220人	12,660,000	合 計	6,193人	19,090,000
	653人	2,470,000																
過年度分(平成21年度以前分)																		
過年度分(平成22年度分)	1,320人	3,960,000																
当年度分(平成23年度分)	4,220人	12,660,000																
合 計	6,193人	19,090,000																
雑 収 入	20,000	250,000	利息															
収 入 計	19,620,000	19,340,000																
前年度繰越金	94,000,000	88,150,000																
合 計	113,620,000	107,490,000																

(支出の部)

科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要															
共 済 金	19,200,000	18,450,000	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: right;">11,900,000</td> <td style="width: 40%;">(100,000×119件)</td> </tr> <tr> <td>弔慰共済金</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>罹災共済金</td> <td style="text-align: right;">2,000,000</td> <td style="text-align: right;">(火災・風水害・地震)</td> </tr> <tr> <td>80歳祝金</td> <td style="text-align: right;">4,500,000</td> <td style="text-align: right;">90人</td> </tr> <tr> <td>100歳祝金</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> <td style="text-align: right;">1人</td> </tr> </table>		11,900,000	(100,000×119件)	弔慰共済金			罹災共済金	2,000,000	(火災・風水害・地震)	80歳祝金	4,500,000	90人	100歳祝金	50,000	1人
	11,900,000	(100,000×119件)																
弔慰共済金																		
罹災共済金	2,000,000	(火災・風水害・地震)																
80歳祝金	4,500,000	90人																
100歳祝金	50,000	1人																
事 務 費	750,000	240,000	弔慰金振込手数料, 祝金送料他															
予 備 費	6,000,000	6,000,000																
給 付 準 備 金	87,670,000	82,800,000																
合 計	113,620,000	107,490,000																

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
名簿積立金収支予算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
繰 入 金	2,000,000 <sup>円</sup>	2,000,000 <sup>円</sup>	経常部より				
雑 収 入	10,000	10,000	利息	次 年 度 繰 越 金	2,010,000	4,020,000	
前 年 度 繰 越 金	0	2,010,000					
合 計	2,010,000	4,020,000		合 計	2,010,000	4,020,000	

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
退職積立金収支予算

(自 平成23年1月1日)  
(至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
繰 入 金	1,000,000 <sup>円</sup>	3,000,000 <sup>円</sup>	経常部より				
雑 収 入	10,000	10,000	利息	次 年 度 繰 越 金	2,680,000	5,690,000	
前 年 度 繰 越 金	1,670,000	2,680,000					
合 計	2,680,000	5,690,000		合 計	2,680,000	5,690,000	



## (支出の部)

科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
事 務 費	700,000 <sup>円</sup>	1,100,000 <sup>円</sup>	
通信運搬費	500,000	800,000	プログラム発送・セミナー案内葉書他
消耗品費	100,000	200,000	
雑 費	100,000	100,000	
事 業 費	15,100,000	22,400,000	
講師謝礼費	3,300,000	5,000,000	1. 講 師 3,000,000 2. 実習講師 2,000,000
講師旅費交通費	1,200,000	1,500,000	講師旅費交通費, 宿泊費, 委員旅費交通費
資料作成費	900,000	1,700,000	1. 実習用資料 1,000,000 2. 講演用資料 700,000
実習器材費	4,200,000	6,500,000	1. 実習用器材 5,500,000 2. 講演用器材 1,000,000
役 務 費	1,500,000	1,900,000	1. セミナー役務 1,000,000 2. 運営役務 400,000 3. 実習インストラクター 300,000 4. 症例発表 200,000
設 営 費	1,400,000	2,500,000	1. スライド関連費 300,000 2. 運営資材費 1,200,000 3. 演者・委員昼食 500,000 4. 消耗品費 500,000
印刷広報費	700,000	900,000	研修用プログラム印刷他
受講証関係費	100,000	100,000	
広 告 費	1,000,000	1,400,000	1. 雑誌広告 900,000 2. DM料 500,000
渉 外 費	400,000	700,000	講師打合せ会費他
会 場 費	400,000	200,000	
公 租 公 課	400,000	400,000	消費税
支 出 計	16,200,000	23,900,000	
予 備 費	220,000	220,000	
合 計	16,420,000	24,120,000	

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
 卒後研修セミナー積立金収支予算

(自 平成23年1月1日)  
 (至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
雑 収 入	10,000	50,000	利息	繰 入 金 出	400,000	200,000	卒後研修 セミナー繰入
前 年 度 金	19,020,000	18,630,000		次 年 度 金	18,630,000	18,480,000	
合 計	19,030,000	18,680,000		合 計	19,030,000	18,680,000	

**第17号議案**

平成23年度 東京歯科大学同窓会  
 時局対策費積立金予算

(自 平成23年1月1日)  
 (至 平成23年12月31日)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要	科 目	平成22年度 予 算	平成23年度 予 算 案	摘 要
繰 入 金	20,000,000	8,000,000	経常部より				
雑 収 入	50,000	50,000	利息	協 力 金	25,000,000	0	
前 年 度 金	32,070,000	27,120,000		次 年 度 金	27,120,000	35,170,000	
合 計	52,120,000	35,170,000		合 計	52,120,000	35,170,000	

## 平成23年度 名誉会員推薦名簿

本会会則第22条第2項並びに同施行細則第8条第1項一号に基づき次の会員を  
本会名誉会員に推薦する。

東京歯科大学名誉教授 薬師寺 仁 氏  
前東京歯科大学 小児歯科学講座  
(平成22年5月31日退職)  
平成22年6月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 柿 澤 卓 氏  
前東京歯科大学 口腔健康臨床科学講座  
(平成22年5月31日退職)  
平成22年6月1日 東京歯科大学名誉教授

東京歯科大学名誉教授 安 達 康 氏  
前東京歯科大学 口腔健康臨床科学講座  
(平成22年7月31日退職)  
平成22年8月1日 東京歯科大学名誉教授